2019 年度～2023 年度

第三次恵那市子どもの読書活動推進計画

恵那市

目 次

第１章　計画策定（第三次）にあたって …… 1
計画策定の趣旨 …… 1
計画策定の背景 …… 1
第２章　第二次計画における取り組み …… 4
第二次計画の考え方 …… 4
これまでの取り組み状況 …… 5
第二次計画の成果と課題 …… 8
第３章　第三次計画の策定の基本的な考え方 …… 10
基本理念 …… 10
計画の指標 …… 10
基本目標と基本施策 …… 11
第三次計画の位置づけ …… 12
計画の対象 …… 12
計画の期間 …… 12
第４章　子どもの読書活動推進のための施策 …… 13
1　子どもが読書に親しむ機会の提供 …… 13
（１）　読書に親しむきっかけづくり …… 13
（２）　読書習慣の確立 …… 15
2　子どもをとりまく読書環境の整備 …… 19
（１）　図書館等の整備・充実 …… 19
（２）　家庭、地域等における読書環境の整備 …… 23
3　子どもの読書活動を推進するための人材育成 …… 25
（１）　市民ボランティアの育成 …… 25
（２）　図書館における人材育成 …… 26
第５章　計画の推進に向けて …… 29
第６章　参考資料 …… 30

第１章　計画策定（第三次）にあたって

計画策定の趣旨

第一次において、「読書活動は、子どもが人生をより豊かに生きる力を身につけていく上で欠くことができないものであり、子どもが自発的に行う遊びや活動の中で五感を働かせ、喜怒哀楽の感情を豊富に経験しながら、豊かな人間性を身につけていく。同様に読書を通じて言葉を学び、本の楽しさやおもしろさ、素晴らしさから豊かな感性や表現力、想像力を養う。」をもとに子どもの読書活動の推進にあたってきました。

また、第二次では、「いつでも　どこでも　本を」をコンセプトに、子どもが読書活動の楽しさや素晴らしさに出会い、読書活動ができる環境づくりを進め、子どもの健やかな成長を図る目的で、子どもの読書活動の推進にあたってきました。

平成 30 年、国が策定した「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」では、児童用の貸出冊数や全校一斉読書活動を行う割合が増加し、不読率（１ヶ月に一冊も本を読まない子どもの割合）も改善傾向（平成 14 年と平成 29 年を比較して小学校は 8.9%から 5.6%、中学校は 32.8%から 15.0%、高等学校は 56.0%から 50.4%）にあるが、依然、目標値（小学校 3.0%、中学校 12.0%、高等学校 40.0%）には達していないことから、発達段階に応じた取り組みにより読書習慣を形成することや、友人同士で行う活動を通じ読書への関心を高めることを読書活動の推進のための方策として掲げています。

これを踏まえ、第二次恵那市子どもの読書活動推進計画を検証し、第三次計画を策定するものです。

計画策定の背景

■子どもを取り巻く社会情勢

近年、少子・高齢化はどんどん加速し、核家族化や単身世帯が増えています。子どもと高齢者、地域の関わりが弱まる中、テレビやビデオなど映像文化の浸

透、インターネットやＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）など情報技術の発展で、子どもをとりまく生活環境は大きく変化してきています。さらに、人々の価値観や生活様式は多様化しており、影響は少なくありません。

国の調査においても、あらゆる分野のさまざまな情報がインターネット等により簡単に手に入る一方で、視覚的な情報と言葉の結びつきが希薄になり、情報の中身を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことが少なくなってきているのではないかという指摘もあります。

その中で、子どもたちはさまざまな時代の変化に積極的に対応し、他者と一緒に課題を解決することや、さまざまな情報を見極め、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築できるようにすることが求められています。

■子どもの読書活動をめぐる動き

国では、読書の持つ価値を認識し、子どもの読書活動を支援するため、平成13 年 12 月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が成立し、平成 14 年８月には「子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画」が策定されました。平成 20 年 3 月には、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次）」、平成 25 年 5 月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第三次）」、平成 30 年 3 月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）」策定されています。

岐阜県では、読書活動により子どもたちの誰もが自立して生きる力を身につけることができるよう、平成 16 年 3 月に「岐阜県子どもの読書活動推進計画（第一次）」が、平成 22 年 3 月に（第二次）が、平成 27 年 3 月に（第三次）が策定されました。

本市においても、国や県の施策の動向を踏まえ、第二次の趣旨を継承し、この 5 年間の成果と課題を踏まえ、引き続き第三次計画の実施に取り組みます。

読書活動推進計画に関する国・県・市の動き

年月	国	岐阜県	恵那市
平成 13 年 12 月	「子どもの読書活動の推進に関する法律」		
平成 14 年　8 月	「第一次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」		
平成 16 年　3 月		「第一次岐阜県子どもの読書活動推進計画」	
平成 17 年　7 月	「文字・活字文化振興法」		
平成 18 年 12 月	「教育基本法」の改定		
平成 19 年　6 月	「学校教育法」等教育三法の改正		
平成 20 年　3 月	「第二次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」		
平成 20 年　6 月	「図書館法」の改正、「国民読書年」に関する決議		
平成 21 年　3 月			「第一次恵那市子どもの読書活動推進計画」
平成 22 年　3 月		「第二次岐阜県子どもの読書活動推進計画」	
平成 24 年 12 月	図書館の設置及び運営上の望ましい基準		
平成 25 年　5 月	「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」		
平成 26 年　3 月			「第二次恵那市子どもの読書活動推進計画」
平成 26 年　6 月	「学校図書館法」の改正		
平成 27 年　3 月		「第三次岐阜県子どもの読書活動推進計画」	
平成 28 年 10 月	「これからの学校図書館の整備充実について」		
平成 29 年　3 月	「幼稚園教育要領、小学校及び中学校学習指導要領」の公示		
平成 30 年　3 月	「高等学校学習指導要領」の公示		
平成 30 年　3 月	「第四次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」		
平成 31 年　3 月			「第三次恵那市子どもの読書活動推進計画」

第２章　第二次計画における取り組み

第二次計画の考え方

第二次計画では第一次計画で定めた「3 つの基本目標」「6 つの基本施策」を継承して、発達段階に合わせて変化する子どもの興味や関心を捉え、家庭、学校、中央図書館、地域、ボランティア活動団体などがそれぞれの立場で役割を果たしながら相互に連携・協力して、子どもの読書活動を推進してきました。

そして、これまでの取り組みの成果、あるいは課題を検証して、社会情勢や生活環境を踏まえ、子ども読書活動を推進する施策を講じてきました。

基本理念

えなっこ育む豊かな感性

本でつながるコミュニケーション

基本目標１

子どもが読書に親しむ機会の提供

基本目標２

子どもをとりまく読書環境の整備

基本目標３

子どもの読書活動を推進するための人材育成

これまでの取り組み状況

６つの基本施策（１）読書に親しむきっかけづくり（２）読書習慣の確立（３）図書館等の整備・充実（４）家庭、地域等における読書環境の整備（５）市民ボランティアの育成（６）学校図書館経営にかかわる人材育成から、主に取り組んだ事業をまとめてみました。

（１）読書に親しむきっかけつくり

・乳幼児期の保護者の啓発において、ブックスタート事業では健幸推進課と連携し、7ヶ月検診において、図書館司書とボランティアにより、絵本の紹介をしながら親子に本を読み聞かせるとともに、絵本の楽しみ方、絵本の良さ、家族で本を読むきっかけづくりを伝えました。

・子ども元気プラザにて読み聞かせを行い、家族で本を読むきっかけづくりを伝えました。

・幼児期には 3 歳児に読書手帳「えほんのおもいで」を配付し、読書記録をつけるとともに、家族で本を読む機会を作りました。

・中央図書館では司書や図書館サポーターによるおはなし会や、こども園等へ訪問し読み聞かせを実施することによって、子どもたちが本の楽しさを知ることができるよう働きかけを行いました。

・何を読んだらいいか分からない子どもや、何を勧めたらいいのか分からない保護者の声から、小学校入学時に成長に合わせて、子どもに読んで欲しい本を「子どもがすきな本リスト」として配布するとともに、リストに挙げた本を中央図書館に準備し、いつでも読めるようにしました。

・大人が子どもの頃に出会った 25 年以上長く読まれてきた絵本を「25 歳の絵本」と呼び、中央図書館やこども園に設置し家族で読んでもらうよう働きかけを行いました。

・学校と連携を図り、学校巡回司書が学校の授業に出向いて本を紹介し、授業の内容を深めたり、興味や関心を広げたりするためのブックトークを行いました。

（２）読書習慣の確立

・全市民が読書に親しむ日として第三日曜日を「恵那市読書の日」と定め、この日に合わせて、さまざまなイベントを開催し、家族で中央図書館に訪れ、読書に親しむきっかけを作りました。

・家族読書や保護者の読み聞かせボランティア、地域の読み聞かせボランティアなど、学校と保護者を中心に地域との連携を強化する体制をとり、きっかけづくりから読書

習慣へ繋げるよう図りました。

・小・中学校の教育活動の中に、読書月間、読書週間並びに一斉読書などに取り組む時間を設け小中学生が読書に親しむ時間を確保しました。

・中高生を中心とした若い人に読んでもらいたい図書、将来の姿を模索する助けとなるような図書資料の収集をして提供しました。

（３）図書館等の整備・充実

・発達段階に合わせた資料、「25 歳の絵本」、「ファーストメッセージ」（28 年度より「絵本のおもいで」に変更。）、「セカンドメッセージ」（平成 28 年度より「子どもの好きな本リスト」に変更。）のパンフレットを作成し、「25 歳の絵本」は市内こども園全園に配置しました。また、中央図書館では、「こどもインフォメーションコーナー」を設けて医学、心理学、教育、社会等、さまざまな分野における児童に関する資料を提供しました。児童書、ジュニアコーナーなどでも年齢にあわせて本を並べる工夫をしました。

・中央図書館の広報誌「ブンさんとクンたんだより」（30 年度より「えなとだより」に変更）を発行、ホームページの活用などにより読書への興味や関心を深めるよう情報発信を行いました。

・障がいのある子への取り組みでは、健常者の理解を深めるために、障がい者週間の際に障がいに関する本の紹介を行いました。また、車いすの配置や、視覚障がい者向けに「よむべいスマイル」（音声・拡大読書機）を購入し、障がいの方も利用できる環境整備を行いました。

・児童生徒の読書活動の拠点である学校図書館において、展示や資料の充実をしました。

・中央図書館では、児童・生徒の読書活動を推進するため、学校の授業で役立つ資料の収集、学校のリクエストに応じた資料を提供する体制を整え、定期的に学校を巡回し、本を配送するシステムを整えました。

・中央図書館と学校と連携を図り、リクエストによる読書用の図書の支援や、さまざまな本を紹介するためのブックトーク事業、調べ学習や授業に役立つ図書、先生のための教科の参考資料の配送などを行いました。

（４）家庭、地域等における読書環境の整備

・何を読んだらいいか分からない子どもや、何を勧めたらいいのか分からない保護者の声から、小学校入学時に合わせて、子どもに読んで欲しい本を「子どもがすきな本リスト」として配付するとともに、リストに挙げた本を図書館に準備し、いつでも読め

るようにしました。【再掲】

・全市民が読書に親しむ日として第三日曜日を「恵那市読書の日」と定め、この日に合わせて、さまざまなイベントを開催し、家族で中央図書館に訪れ、読書に親しむきっかけを作りました。【再掲】

・地域に読書推進活動団体を立ち上げ、地域の方々が中心となり、読書を楽しむだけでなく、コミュニティセンター図書室の企画･展示など行い、読書環境の整備に努めました。

・中央図書館とコミュニティセンター図書室をネットワークシステムで結び、配送サービスと併せて、連携強化を図り、直接中央図書館を利用できない子どもたちの利用機会を増やしました。

（５）市民ボランティアの育成

・恵那市図書館サポーターを養成し、子どもたちへの読み聞かせや読書推進のための催し物の企画・運営、図書の修理や書架整理、障がい者のための読書支援、図書館の環境整備、郷土資料の整理、広報誌の発行など、読書活動の推進や図書館のＰＲ等を行いました。

・修理本ボランティアなど実際に活動を行いながら技術を習得する研修を行いました。

・地域の方々が中心となり、読書を楽しむだけでなく、子育てと読書とまちづくり活動等、必要な知識や情報の収集を支援し人材育成の充実を図りました。

（６）学校図書館経営にかかる人材育成

・国、県、各種団体の主催する研修会へ参加し、技術や資質の向上を図りました。

・情報交換を密に行うことで、職員間の知識やノウハウの共有を図り、サービスの向上に努めました。

第二次計画の成果と課題

前段より、進めてきた第二次計画の取り組みについては、読書調査や、基本施策から検証した結果、概ね進展が図られています。

乳幼児期の読書状況

子どもに読み聞かせをしている回数について、「毎日もしくは週に２日～３日」と答えた割合が 78%となっています。この数値は読み聞かせが好きな保護者の割合と一致していることから、子どもの読書活動を推進していく上で、保護者が読書に関心を持つことが非常に重要となります。

さらに、読書に関心のある保護者も多く、読み聞かせにおいてはさまざまなやり方で、子どもと読書を楽しんでいる姿が浮かびました。

この数値を維持していくためにも、引き続いて保護者に対する読書の大切さを周知していく活動が有効だと思われます。

小中学生の読書状況

小中学生の読書量については、1 ヶ月に 1 冊も読まなかった不読率は、小学生 2.7%（全国平均 5.6%）、中学生 5.9%（全国平均 15%）と全国と比較して低い数値となっています。また、平均読書冊数も小学校 15.1 冊（全国 11.1 冊）、中学校 7.2 冊（全国 4.5 冊）と全国と比較して高い数値であることから、恵那市の子ども読書活動に関する取り組みに一定の成果が見られます。

一方、自ら進んで本を読む習慣については、中学 2 年生から減ってくることから、部活動や受験勉強の影響や、SNS など読書以外の事に費やす時間が増えていると考えられます。

今回、スマートフォン・タブレットの利用状況について調査をしましたが、利用頻度では年齢があがるにつれて増加傾向にあり、中学 3 年生ではほとんどの生徒が日常に利用しているという結果となりました。また、子どもだけでなく、大人たちにも環境の変化、生活様式の多様化の影響は否めなく、家庭や地域、学校、それぞれの立場から読書環境の整備に努め、子どもの読書活動をより一層の推進を図る必要があります。

特に保護者や周りの大人たちからの読書に対する働きかけ、読書が習慣となる環境をつくりだす等、読書に対する意識の向上が大きな課題と思われます。読書の必要性を理解すること、継続して求める力を蓄えるなど、大人たちからメッセージを発し、家庭や地域、学校それぞれの立場から、連携して市全体でサポートし、継続して取り組んでいくことが必

要です。

本を読む理由として「本が好きだから」と答えている割合と、「学校で本を読む時間があったから」と答えている割合が、ほぼ同じ割合であることから、少しでも読書の好きな児童生徒を育てる必要があります。

児童生徒にとって一番身近にある学校図書館は、さまざまな本を手に取る機会が多いことから、学校図書館の一層の環境整備と有効活用が求められています。

さらに、図書委員や子ども司書による本の紹介や、友だち同士で本を薦め合うなど、共読による読書への関心を高める取り組みも有効です。

高校生の読書状況

市内高等学校生徒の読書の好きな割合は 58%と比較的高く、不読率も 41.3%（全国平均 50.4%）と低い結果となりました。これは学校で行われている朝読書による読書活動が反映していると思われます。

本を１ヶ月に１冊も読まなかった理由として、「勉強、部活動等で読書をする時間が無い」「読みたい本が無かった」、「スマホを使用する時間が多く読書する時間が無い」と回答した生徒が多い結果となりました。

読む本を選ぶきっかけとしては、書店や図書館において直接本の情報を得ていることがわかりました。

自分にとって読書が必要と考える生徒は 78%と、中学生と比較して読書離れが進んでいる中でも、必要と思っている生徒が多いことがうかがえます。

以上のことから、高等学校においても朝読書のような一斉読書は読書推進していく上で必要であり、読書時間が限られる中でどのようにして読書を推進していくのか課題であるといえます。

第３章　第三次計画策定の基本的な考え方

恵那市の生涯学習の基本である、恵那市三学のまち推進計画は、生涯学び続けることの大切さを説いた、郷土の先人佐藤一斎の「三学の精神」を理念としています。施策の柱である「書に学ぶ」「求めて学ぶ」「学んで生かす」を進めるためにも、生涯学び続ける基礎をつくる子どもの読書活動の推進が極めて重要となります。

第三次計画では、「恵那市次世代育成支援行動計画」において、子どもは「恵那市の次世代を担う宝である」という視点に立ち、子どもたちが読書を通じて言葉を学び、感性を磨き、表現力や想像力を養い、さらに高いコミュニケーション能力、自ら考え自ら行動していく力を身につけることができるように、読書に親しむ環境づくりを進め、生涯にわたって楽しく学ぶことができる「読書のまち」づくりを推進していきます。

基本理念

えなっこ育む豊かな感性

本でつながるコミュニケーション

計画の指標

基本理念を実現するために、以下の３つの事項を読書活動の指標として進めていきます

①　読書が好きな子どもを増やします。

②　１ヶ月に１冊以上、本を読む子どもを増やします。

③　読み聞かせが好きな保護者を増やします。

基本目標と基本施策

本計画では、子どもの発達段階に応じた取り組みにより、子どもの読書離れを防ぎ、読書に親しむきっかけづくりや読書習慣の形成に努めるため、第一次、第二次計画の基本的な考え方である「3 つの目標」と「6 つの基本施策」を継承して、子どもの読書活動を推進する施策を講じます。

基本目標 1

子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもが読書を通じて言葉を学び、読解力や想像力、思考力、表現力等を身につけ、読書の楽しさを知るなど、読書に親しむきっかけづくりや、読書習慣の確立、読書体験を深めるような機会を提供します。

基本施策

（1）読書に親しむきっかけづくり

（2）読書習慣の確立

基本目標 2

子どもをとりまく読書環境の整備

図書館をはじめとする読書環境の整備、その他の諸条件の整備・充実を図るとともに、子どもの読書活動に対する理解と関心を深め、家庭、地域、学校が連携協力し、恵那市全体で子どもの読書習慣を形成できる環境づくりを目指します。

基本施策

（1）図書館の整備、充実

（2）家庭、地域、学校における読書環境の整備

基本目標 3

子どもの読書活動を推進するための人材育成

ボランティア活動団体、市民活動団体など子どもと本をつなぐ人材を育成し、図書館の職員や学校教職員とともに子どもが楽しく読書に親しむことができる活動を進めていきます。

基本施策

（1）市民ボランティアの育成

（2）図書館における人材育成

第三次計画の位置づけ

この計画は、国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」第９条や「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）」、県の「岐阜県子どもの読書活動推進計画（第三次）」、また、本市の「第二次恵那市総合計画」、「恵那市三学のまち推進計画（第二次）」、「恵那市次世代育成支援行動計画」の内容を踏まえ、それらとの整合性を図りながら、今後の恵那市の子どもの読書活動に関する施策を積極的に推進するための指針となるものです。

計画の対象

この計画にいう子どもとは、国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」に準じて、おおむね 18 歳以下の者とします。

計画の期間

この計画の期間は、平成 31 年度から平成 35 年度までの５年間とします。

なお、社会・経済情勢、子どもをとりまく読書環境の変化等に迅速に対応していくために、必要に応じて計画の見直しを行っていきます。

第４章　子どもの読書活動推進のための施策

１．子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもの読書の二極化が進み、読書をする子としない子に分かれる傾向にあります。「読解力の低下」「読書離れ」に対し、どのようにして本の楽しさや読書に関心を持たせ、読書を通じて豊かな人間性を育むかが大きな課題となります。

本市では、子どもが読書の楽しさに気付くきっかけづくりや読書習慣の形成に努めます。

（１）読書に親しむきっかけづくり

■乳幼児期の取り組み

子どもが自ら読書をする習慣を身に付けるには、乳幼児期から本に親しむことが大切です。そのためには、子どもにとって最も身近な存在である保護者に対し、子どもを育てる上での読書の重要性についてさまざまな機会を通して働きかけを行い、読み聞かせが好きな保護者を育てることが大切です。家庭において読み聞かせをしたり、子どもと一緒に図書館に出向いたりするなど、子どもが読書に親しむきっかけを作ることで、子どもは本と過ごす時間を楽しいと思うようになり、それらを通して想像したり、表現したりすることが好きな子どもになると考えます。

また、こども園、幼稚園や保育園では、子どもが自由に本を選んで借りて、家族で読み聞かせが楽しめるよう、読書に親しむきっかけづくりを推進していきます。

施策の方向性

■保護者をはじめ、子どもに関わる大人が本を読むことの大切さを理解し、乳幼児期から読書に親しむための働きかけに努めます。

■ブックスタート事業やおはなし会を通じて、家族で本に親しむ機会を提供します。

■子どもたちが絵本により興味をもつよう、ひよこパパママ学級、乳幼児学級、おはなし会などの場で、「25 歳の絵本」や「えほんのおもいで」などの事業を展開していきます。

■こども園、幼稚園や保育園、子育て支援センター、こども元気プラザなど、子ども

の集まる場所で乳幼児が絵本や物語に親しむ活動を積極的に行うとともに、本にふれる機会を提供します。

■図書館イベントを開催し、家族で図書館に訪れる機会を提供します。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	対象	担当部署	
ブックスタート事業	赤ちゃんが初めて本と出会い、保護者とともに絵本を通じてゆっくり心ふれあうひとときを持つきっかけになるよう、7か月児教室の折、図書館司書と読み聞かせボランティアで絵本の紹介及び絵本の選び方や楽しみ方のフォローをします。	乳幼児期	中央図書館 健幸推進課	継続
乳幼児の保護者への啓発	ひよこパパママ学級、地域の乳幼児学級、こども元気プラザ等において、子どもを持つ親に対し、子どもの読書活動の大切さについて理解・関心を持ってもらえるよう啓発します。	乳幼児期	中央図書館 生涯学習課 子育て支援課	継続
えほんのおもいで事業	絵本の楽しさがわかりはじめる年代である、3歳児に対して「えほんのおもいで」を配付するとともに、保護者に向けて読書に親しむための働きかけを行い日常的な読み聞かせを進めていきます。	乳幼児期	中央図書館 幼児教育課	継続
読み聞かせ活動及びおはなし会の開催	図書館司書や図書館サポーターが図書館でおはなし会を開催したり、こども園や地域行事等で、読み聞かせをしたりすることによって、子どもたちが本の楽しさを知ることができるよう働きかけます。	乳幼児期	中央図書館	継続
25歳の絵本事業	大人が子どものころ出会った25年以上長く支持されている絵本を、家族で楽しみながら、良い絵本に出会えるよう紹介していきます。	乳幼児期	中央図書館	継続
子ども向けイベントの開催	子ども向けイベントを開催し、家族で図書館に訪れ本と親しむきっかけを作ります。	乳幼児期	中央図書館	新規

＊対象は、以下の期間とします。

乳幼児期（0歳～5歳）、小学生期（小学生）、中学生期（中学生）、高校生期（高校生）、全期（乳幼児期から高校生期まで）

（２） 読書習慣の確立

■児童・生徒の読書習慣の確立

子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成していく上で、学校は大きな役割を担っています。学習指導要領でも、子どもたちの言語活動の充実と学校図書館の計画的な利用や活用が求められており、一日の多くを過ごす学校において、子どもと長時間接する教師が、子どもの読書活動について理解や関心を持つことが大切です。

小中学校においては、全校一斉の読書活動や親子読書など、各学校の特色や地域、児童生徒の実態に即したさまざまな取り組みをしてきました。また、中央図書館とのネットワーク化により、市内の読書活動の取り組みでの連携はスムーズとなり、今後も読書時間の確保や学校においての読書指導をより重視していきます。

国の第四次計画には「学校においては、全ての子どもが自由に読書を楽しみ、読書の幅を広げていくことができるように適切な支援を行うとともにそのための環境を整備する。その際、子どもの読書の量を増やすことのみならず、読書の質をも高めていくことが求められている。」とあります。読書の質を高めていく取り組みとして、読書の楽しさや本のすばらしさ、さまざまな種類の本と出会うきっかけになるブックトークは有効であり、引き続いて進めていきます。

ＩＣＴ（情報通信技術）を活用した学校教育が進められています。今後、タブレット端末を用いた授業が行われる中で、インターネット版の百科辞典を利用した調べ学習や、テレビ会議システムを利用したビブリオバトル（おすすめ本を紹介し合う書評合戦）など、ＩＣＴを活用した読書活動についても取り組んでいきます。

また、インターネットなどから情報を得る機会が増える一方で、紙媒体から読み取る力が弱くなってくると思われます。そのため司書教諭、学校図書館巡回司書が中心となり、学校図書館を使った調べ学習や、学校図書館を活用して本から読み取る力の強化にも努めていきます。

中央図書館においては、子どもの読書推進のために、一層の利用促進を図ることが必要です。学校からの見学の受け入れ、子ども向けイベントの開催、小学生低学年向けに読み聞かせを行うなど、今後もさまざまな形で中央図書館に来館してもらう機会を提供していきます。

思春期といわれる中学生・高校生の年代は、自分自身を見つめ直す意識が高まり、社会に対する興味や関心がさらに多様化する時期です。将来を見通した生き方を考え、

自分の世界を広げる助けとなるような「心に残る一冊の本」と出会い、読書が大きな役割を果たすことが期待されます。しかし、昨年行った学校読書調査では、全国学校読書調査の傾向と同じく、小学生に比べ読書量・時間ともに大きく低下しています。

この年代に対しては、読書をする機会が少なくなることから、読書への関心を高める取り組みが必要です。学校での朝読書等の取り組みや、子ども同士で本を紹介するために図書委員による読書推進活動、ビブリオバトルなど、自主性を尊重しつつも、「心に残る一冊の本」と出会う機会を作ることを求めていきます。

施策の方向性

■子どもの読書活動に取り組む時間を設け、読書習慣の形成に努めます。
■発達段階にあわせて変化する子どもの興味や関心を捉え、幅広い分野において、本に関する情報提供を図ります。
■子どもの進路や生き方と結びつけて、様々なアプローチを行い、子どもが主体的、意欲的に読書に取り組めるよう支援します。
■子ども同士で本を紹介するなど、読書への関心を高める活動を行います。

主な取り組み事業

業名	事業内容	対象	担当部署	
ブックトーク事業	ブックトークは、ある一つのテーマに沿ってお話をしながら、何冊かの本を紹介するという読書案内です。子どもたちが今まで知らなかったことについて、本に詳しい人からお話を聞くことによって、新しい本との出会いがあり、興味や関心を広げるきっかけとなります。 図書館では学校図書館巡回司書が学校において資料を紹介し、授業の内容を深めたり、興味や関心を広げたりするためのブックトークの支援を行います。	小学生期 中学生期	学校教育課 中央図書館	継続
読み聞かせ活動及びおはなし会の開催	図書館司書や図書館サポーターが、図書館でおはなし会を開催したり、地域の人達が小学校へ出向いて読み聞かせをしたり、地域行事でおはなし会をすることで、子どもたちが本の楽しさを知り、読書をする習慣が身につくよう支援します。	小学生期	中央図書館	継続

「子どもが好きな本リスト」の作成・配布	何を読んだらいいかわからない子どもや、何を勧めたらいいのか分からない保護者のために、成長に合わせて、「子どもが好きな本リスト」を作成・配付するとともに、リストに挙げた本を図書館に準備し、いつでも読めるようにします。	小学生期	中央図書館	継続
異年齢と交流	小中学生がこども園、幼稚園、保育園、小学校等で読み聞かせを行い、子どもが絵本や物語にふれる機会が多様になるよう工夫し、本の楽しさを知り、読書をする習慣が身につくようにします。	乳幼児期 小学生期 中学生期	学校教育課	継続
読書月間、読書週間、一斉読書	小中学校の教育活動の中に、読書月間、読書週間並びに一斉読書などに取り組む時間を設け、小中学生が読書に親しむ時間を確保し、子どもたちの読書習慣の形成に努めます。	小学生期 中学生期	学校教育課	継続
ＩＣＴを活用した読書活動の創出	インターネット版百科事典を利用した調べ学習や、テレビ会議システムを利用したビブリオバトルなどＩＣＴを活用した読書活動について検討していきます。	小学生期 中学生期	学校教育課	新規
学校図書館を活用した調べ学習の推進	学校図書館を活用して、調べ学習を進めていきます。	小学生期 中学生期	学校教育課	新規
同世代による読書推進活動	読書の関心を高めるために、「おすすめ本の紹介」「ビブリオバトル」など、同世代から読書への関心を高める取り組みを進めていきます。	小学生期 中学生期 高校生期	学校教育課 中央図書館	新規

■子どもの読書への家庭が果たす役割

読み聞かせは、好奇心、自己抑制、諦めず挑戦する力、自己主張、協調性など、試験では測りにくい「非認知能力」を高くするということがいわれています。家族で同じ世界を共有し、一緒にやりとりを楽しみながら取り組むことで、子どもの成長に良い影響を及ぼします。

インターネットなどのさまざまな情報メディアの発達により、子どもの身近にいる大人自身の読書の機会が少なくなり、特に、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及など、生活環境が大きく変化している中で、小さい頃からの読書の習慣が薄れてきています。学校読書調査でもスマートフォン、タブレットなどに費やす時間が年齢とともに増える一方で、自分から進んで週 3 日以上読んでいる子どもの割合は小学４年生が 7 割以上であるのに対し、中学３年生では 4 割程度と、読書離れが進んでいることがうかがえます。

子どもの読書活動を進めていく上で、どの年代の子どもに重点的に働きかけていく

かが、大きなかぎとなります。乳幼児期から児童期にかけて、家庭で本にふれる機会を多く持つことが、読書が好きな子どもを育んでいくと考えられることから、家庭において子どもに読書習慣を身につけさせ、定着させていくことが重要となります。

そのためには、家族で読書をする、本について語り合うなど、大人も本を読む姿勢を示すことが必要です。恵那市三学のまち推進計画において、毎月第三日曜日を「恵那市読書の日」と定めていることから、これにあわせて、学校や地域、家庭と連携し、保護者に対しても読書の必要性について啓発していきます。

施策の方向性

■保護者をはじめ、子どもとともに暮らす大人に対し、子どもの読書の大切さを広く伝え、継続して本に親しんでもらえるよう支援していきます。

■日常生活を通して子どもが読書習慣を形成できるよう、家庭に向けた情報提供の充実を図ります。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	対象	担当部署	
恵那市読書の日の普及・啓発	毎月第三日曜日を「恵那市読書の日」としました。この日を中心として、子ども読書の大切さ、家族の触れ合いの大切さなど、読書活動の普及・啓発を図っていきます。	全期	中央図書館 生涯学習課	継続
家族読書の推進	ＰＴＡ活動と学校との連携を図りながら、子ども読書活動の重要性についての理解を深め、家族による読書活動を広げていきます。	小学生期 中学生期	学校教育課	継続

2. 子どもをとりまく読書環境の整備

情報社会の進展により、余暇時間の過ごし方は多様化し、子どもをとりまく環境は大きく変化しています。

しかし、社会が変化しても、読書活動のもつ意義は本質的には変わるものではありません。

子どもたちが読書を通じて言葉を学び、感性を磨き、表現力や想像力を養い、さらに高いコミュニケーション能力、自ら考え自ら行動していく力を身につけることができるように、読書ができる環境づくりを進めていきます。

（1）図書館等の整備・充実

■魅力ある読書環境の整備と資料の充実

恵那市では、生涯学習のまちづくりを進めるために「書に学ぶ」「求めて学ぶ」「学んで生かす」の 3 本柱のもと「市民三学運動」を展開しています。

図書館は、一つ目の柱である「書に学ぶ」に代表される拠点施設であり、市民ひとり一人が生涯学び続ける基礎をつくるために、自ら考え、より豊かな生活の実現をめざすところです。多くの本の中から、子どもが自分の興味や関心のある本を自由に選び、手にとることができる環境や、また、保護者にとっても、子どもに読んでほしい本を選び、子どもの読書について相談をすることができる環境を整えます。

現在、「子どもの本のコーナー」には絵本や児童図書、紙芝居などの資料を子どもの成長に合わせて配置するなど、さまざまな工夫を凝らして、子どもが楽しく過ごせる空間作りに努めています。また、「ジュニアコーナー」では、中高生を中心とした若い人に読んでもらいたい読み物をはじめ、現在の自分を考え、将来の姿を模索する助けとなる図書を集め、「子どもインフォメーションコーナー」では、子育てに役立つさまざまな本が集めてあります。

少子化対策としても、家族で楽しめる図書館の環境づくりは重要であり、今後も子どもの読書活動を推進するために、図書資料の一層の充実を図るとともに、より多くの子どもや保護者が図書館を利用してもらえるよう、積極的な情報提供を行います。

学校図書館の蔵書では、子どもに必要な図書資料を整備する上で、国が学級数に応じて定めている蔵書冊数（学校図書館図書標準）を維持するよう蔵書の整備を進めていきます。あわせて情報が古くなった図書資料について、新しい図書資料に入れ替えを

進めていきます。また、ＩＣＴ教育で活用できるよう「ふるさと読本」の電子書籍化や郷土の映像資料など、ふるさと学習に活用できる映像関係の資料を充実していきます。さらに美術全集や世界遺産のＤＶＤなど学校図書館や授業など活用できる視聴覚ライブラリーの整備も模索していきます。

施策の方向性

■子どものための図書資料、子育てに関する資料をさらに充実させます。
■子どもが図書館を魅力的な空間として感じ、より気軽に利用できるよう、読書環境の整備に努めます。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	対象	担当部署	
子どもに関する資料、子育てに関する資料の収集	発達段階に合わせた図書資料や、さまざまな分野における子育てに関する資料を収集整理し、提供します。	全期	中央図書館 学校教育課 生涯学習課	継続
図書館活動の情報発信	図書館活動の情報発信では、「えなとだより」「広報えな」「ホームページ」などを利用して、本に対する興味や関心を広げ、読書のきっかけとなるような情報を提供します。また、図書館の読書に関する催しなどの情報を効果的にＰＲしていきます。	小学生期 中学生期	中央図書館 生涯学習課	継続
こども園等での図書整備	子どもに読書習慣を形成していくために、さまざまな絵本の整備を充実していきます。	乳幼児期	幼児教育課	新規
学校図書館での図書整備	子どもに必要な図書資料の充実を図るため、学校図書館図書標準に定められた蔵書を維持していきます。 視聴覚資料の整備についても模索していきます。	小学生期 中学生期	学校教育課 中央図書館	新規
図書館ジュニアコーナーの充実	中高生を中心とした若い人に読んでもらいたい図書資料、現在の自分を考え、将来の姿を模索する助けとなるような図書資料を集め、提供します。	小学生期 中学生期 高校生期	中央図書館	継続

■障がいのある子どもへの読書環境の整備

障がいのある子どもにとっても読書活動が大切であることは言うまでもありませんが、障がいの種類によって、読書を行うのに必要な条件がさまざまであるため、充分に環境が整えられているとは言えないのが現状です。

図書館においては、大活字本、録音資料などの資料収集や図書館利用の際の介助、図書館資料等の代読サービス、音声拡大読書機設置など、障がいのある子どもも利用できるよう、図書館の利用条件や環境整備を図ります。

特別支援学校や特別支援学級においては、障がいの種類や程度など、さまざまな要因により、読書活動の推進が困難な状況が続いています。障がいのある子どもに対して図書館見学の受け入れや、おはなし会を行い読書に親しむ環境をつくっていきます。

また、「サピエ図書館」（視覚障がい者等への情報提供を行う電子図書館）の利用について活用方法を周知していきます。

施策の方向性

■障がいに配慮した利用環境の整備に努めます。（資料の充実、利用条件の整備など）
■障がいに対する理解を深めるための図書資料収集や啓発に努めます。
■障がいの程度に合わせた読書活動の推進に努めます。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	対象	担当部署	
障がいのある子どものための利用環境の整備	図書館は、障害に応じた図書資料の収集、利用可能な環境の整備に努めます。また、サピエ図書館などの利用方法を周知していきます。	全期	中央図書館	継続
障がいのある子どもに対する理解を深める活動	図書館の利用に障がいのある子がいることを知ってもらうよう、広報や資料収集に努めます。	全期	中央図書館	継続
障がいのある子どもへのおはなし会の開催	障がいのある子どもに対して、図書館見学や、おはなし会を開催します。	全期	中央図書館	新規

■中央図書館と学校図書館との連携

国の第四次基本計画では、子どもの読書活動推進にあたっては、読書の楽しさや本のすばらしさ、本を使って調べ、学ぶことを教える大人の存在が極めて重要であり、本の世界への案内役となる専門的な知識・技能を持った職員がいることで学校図書館はより一層その機能を発揮することができます。運営にあたっては、校長のリーダーシップの下、司書教諭が中心となり、教員、学校図書館巡回司書が連携・協力して、それぞれの立場から機能の充実・強化を図る必要があります。

学校読書調査で、図書館の利用について、約 50%の子どもが「学校図書館で借りる」が最も多く、さらに利用回数についても週に 2 ～3 回以上と答えた子どもは小学生で 50%、中学生で 23%と読書量によって差はあるものの、身近な存在である学校図書館が子どもの読書活動を支援していることがわかります。そのため学校にない本や一斉読書、授業に必要な本など学校の求めに応じて中央図書館からの配送を引き続いて行うとともに、学校図書館巡回司書と連携した学校図書館経営を構築していきます。

施策の方向性

■中央図書館からの本等の配送サービスなど、子どもにとって利用しやすい読書環境の整備に努めます。

■学校図書館の管理･運営を行う司書教諭と、学校図書館巡回司書が連携･協力する体制を作ります。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	対象	担当部署	
学校図書館への配送サービス	学校のリクエストに応じ、定期的に学校を巡回し本を配送します。	少年期	学校教育課 中央図書館	継続
司書教諭と学校図書館との連携	さまざまな本を紹介するためのブックトーク事業や蔵書点検、選書作業など司書教諭と学校図書館巡回司書が連携して行います。	少年期	学校教育課 中央図書館	継続

（２）家庭、地域等における読書環境の整備

■家庭が進める子どもの読書環境

近年、情報化社会の波は、テレビやゲームなど音声や画像、映像を媒体とするメディアの普及に加え、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などコミュニケーションの方法まで多様になってきています。アンケート調査でも、スマートフォンやタブレットなどを使用する時間は年齢が上がるにつれて多くなっていく一方で、読書をする機会は少なくなっています。保護者が読書を通じてコミュニケーションを図ることは、子どもの健全な成長に好ましい影響を与えます。

この情報の発達した社会では、日頃から、子どもが読書にふれる機会を多くするなど、家族で読書の楽しさや喜びを共有できる雰囲気づくりが必要であるともに、子どもがいつでも本を身近に感じられるよう、家の中で手の届くところに本がある環境を積極的に作ることが必要です。

施策の方向性

■子どもと家族が読書を通じてコミュニケーションをとり、同じ時間を共有する大切さについて啓発・情報提供を行います。

■読書活動が持つ意義や重要性について、理解を求め、関心を深めるため、さまざまな機会を捉えて普及や啓発に努めます。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	対象	担当部署	
「えほんのおもいで」「おすすめ本」リストの作成・配付	何を読んだらいいかわからない子どもや、何を勧めたらいいのか分からない保護者のために、成長に合わせて、子どもに読んで欲しい本のリストを作成・配付するとともに、リストに挙げた本を図書館に準備し、いつでも読めるようにします。	乳幼児期 小学生期	中央図書館	継続
恵那市読書の日の普及・啓発　[再掲]	毎月第三日曜日を「恵那市読書の日」としました。この日を中心として、子ども読書の大切さ、家族の触れ合いの大切さなど、読書活動の普及・啓発を図ります。	全期	中央図書館 生涯学習課	継続

■地域が進める子どもの読書環境

近年、人間関係の希薄化や子どもたちが自由に活動できる場の減少、地域での子どもの体験活動がだんだん減少する中で、先人が遺してくれた知恵の結晶である書物を提供することが「図書館の発揮するもの・力」と認識し、地域では、地域の子の成長を見守り「子どもは地域の子」という意識のもと、さまざまな世代で、地域全体で子どもを育てていこうとする行動が必要です。

地域は子どもにとって、遊んだり、暮らしたりする日常生活の場であるとともに、子どもがさまざまな活動や生活体験を通じて成長する場であり、住民とともに「読書で人を育てる」とした地域の読書活動を推進するための環境を整備していきます。

地域の読書活動の推進を図るためのボランティア組織は、読み聞かせや、コミニュティセンター図書室の展示、ボランティアのための勉強会、地域でのイベント開催など、さまざまな読書活動に取り組んでいます。各地区の活動組織が立ち上がる中、地域での読書活動が全市に広がり、子どもをとりまくコミュニティの中で、本を読む環境を作っていくことが求められます。また、中央図書館は地域コミュニティセンター図書室との連携を含め、地域が進める子どもの読書環境の整備を支援していきます。

施策の方向性

■中央図書館と連携を図り、相互に協力し合い、子どもの読書環境を充実していきます。

■ボランティア等と協力し、コミュニティセンター図書室での企画、運営、書架整理などの支援に努めるとともに、地域の中で子どもが読書に親しみやすい環境の整備を進めます。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	対象	担当部署	
中央図書館とコミュニティセンター図書室との連携	コミュニティセンターへ定期的に本を配送し、読書環境を充実します。また、中央図書館の本をコミュニティセンターでも検索、配送することにより、中央図書館から離れた地域の子どもたちにも中央図書館の本を利用しやすくします。	–	中央図書館 生涯学習課	継続
地域における読書環境の整備	地域の方々が中心となり、コミュニティセンター図書室の企画展示など行い、子どもが本に興味を持つよう読書環境の整備に努めます。	–	中央図書館 生涯学習課	継続
サポーター活動団体の支援	図書館は活動する団体への支援を行います。	–	中央図書館	継続

3. 子どもの読書活動を推進するための人材育成

子どもの読書活動に全市的に取り組むためには、図書館をはじめとする行政諸機関が連携していくことも大切ですが、市民の協力もまた欠くことができないものです。協働のまちづくりを進める当市においては、子どもの読書活動の推進に積極的に参加する人材を育てることは重要なポイントです。

また、学校図書館の運営に関しても教職員の人材を育成していくことが大切です。

（１）市民ボランティアの育成

■市民ボランティアの育成

子どもの読書活動を推進していく上で、ボランティアの活動は重要な役割を果たしています。図書館では、さまざまなイベントの企画立案から実施、おはなし会の開催、図書の整理、花の飾りつけなど、約 90 名、６団体のボランティアが図書館サポーターとして活動しています。また、本市では、各地域に読み聞かせなどの子どもの読書活動にかかわるグループがあります。こうした活動の輪を地域に広げていくためには、そこに参加する人材を育成していくことが重要です。

ＰＴＡでの読み聞かせ活動など子どもの活動に関わっていた人や、知識や経験の豊富な高齢者など地域には多くの人材が埋もれています。そうした読書活動に関わる人材を発掘し、地域の読書活動を推進していくことが望まれます。

また、子どもたちに本の魅力を十分に伝えることができるよう、勉強会や講習会を通じて、現在、活動に参加している人たちのレベルアップを図ることが求められており、今後も進めていきます。

施策の方向性

■子どもの読書活動を支えるため、ボランティアの資質向上や、新たなボランティアの養成に努めます。

■学校や子どもに関わっている人、あるいは関わっていた人など地域の方々に呼びかけるとともに、人的資源を活かし、ボランティア・サポーターの輪を広げ、子どもの読書活動の推進に繋げます。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	対象	担当部署	
ボランティアの養成	子どもたちへ読み聞かせ、ブックスタート、読書推進のための催し物の企画・運営、障がい者のための読書支援、図書館の環境整備など子どもの読書活動を推進していく図書館ボランティアを養成していきます。	–	中央図書館	継続
地域読書活動を推進する組織の設立	地域の方々が中心となり、学校や子どもに関わっている人、あるいは関わっていた人など地域の方々に呼びかけるとともに、市民ボランティアによる地域の読書活動推進組織の設立を進めていきます。	–	中央図書館 生涯学習課	継続
サポーター活動団体の支援【再掲】	読書活動を推進するため、図書館は活動する団体への支援を行います。	–	中央図書館	継続

（２）図書館における人材育成

■学校図書館における教職員と学校巡回司書の役割

子どもの読書活動を推進する上で、学校と中央図書館とはともに中核となり、緊密に連携をとっていく必要があります。学校では、教職員全体で学校図書館の運営や活用にかかわり、学校と中央図書館の連携を円滑にして、子どもの読書活動を進めていくことが大切です。その中で、教職員は中央図書館で行なう学校への読書活動支援メニューを把握して、ブックトークなどの司書職員派遣依頼や、中央図書館施設見学、資料の提供依頼、学校配送便など有効に活用していきます。

また、学校図書館巡回司書は、図書資料の管理、館内閲覧や館外貸出、ブックトークなど子どもの読書活動を推進していくために重要な人材となります。国では「学校図書館５カ年計画」において、小中学校の概ね 1.5 校に 1 名程度、学校図書館巡回司書を配置するよう努めることが求められています。

さらに、学校において教職員の個々の力量を上げる必要があります。学校図書館の活用の仕方や中央図書館の利用と司書との連携を図り、各学校間での情報を交換するなど研修を実施し職員の意識の向上を図ります。

施策の方向性

■教職員の研修では、学校図書館の積極的活用や、中央図書館利用研修などを実施し、中央図書館と学校との円滑な連携を図ります。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	対象	担当部署	
学校図書館巡回司書の増員	学校図書館巡回司書の数を増やしていくよう努めます。	–	中央図書館 学校教育課	新規
教職員のための図書館利用研修の実施	図書館についての講座を開き、教職員の図書館に対する理解を深めます。	–	学校教育課	継続

■図書館司書に対する研修の充実

図書館は、子どもの読書活動を推進する上での中核施設であり、子どもたちがたくさんの本と出会い、読書の楽しみを発見できる場所でもあります。また、読書活動を推進していく上で必要な情報･資料の集積施設でもあります。

そこに働く司書は、本について、読書について、また子どもたちについて深い理解を持ち、読み聞かせなどさまざまなサービスを提供する上で確かな技量を持つことが求められます。

このため、さまざまな機会、場所を捉えて、図書館司書としての力量の向上に努めます。

施策の方向性

■子どもの読書活動の推進に役立つ技術や資質の向上に努めます。

■職員の知識やノウハウの共有に努めます。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	対象	担当部署	
各種研修会への参加	国、県、各種団体の主催する研修会へ参加し、技術や資質の向上を図ります。	–	中央図書館	継続
館内研修の実施	技術や資質の向上を図ります。	–	中央図書館	継続
職員間の知識・ノウハウの共有	情報交換を密に行うことで、職員間の知識やノウハウの共有を図り、サービスの向上を目指します。	–	中央図書館	継続

■子ども同士で読書活動を推進する人材の育成

子どもの読書活動を推進する上で、国の計画では「友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取り組みが必要」と同年代からの読書活動は効果が高いとしています。中央図書館では多くの子どもに本に関心を持ち、子ども同士で読書を広めていく活動のリーダーとなる人材の育成を目指し、子ども司書講座の開講、図書館イベントでのボランティア、職場体験の受け入れ等を行っていきます。

施策の方向性

■子どもの自主的、自発的な読書活動を支援していきます。

■子ども同士で読書を広めていく、リーダーを育成します。

主な取り組み事業

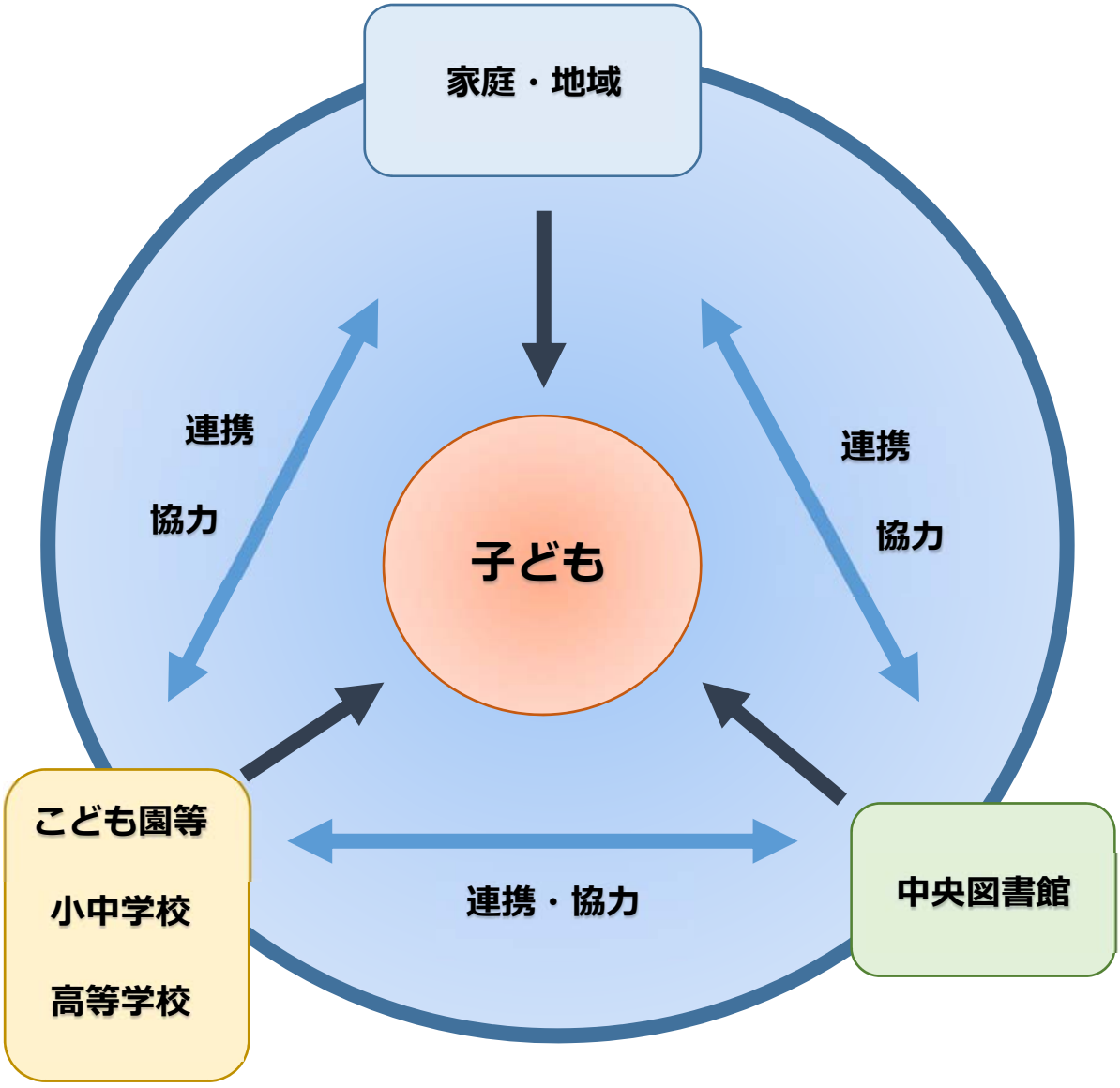
事業名	事業内容	対象	担当部署	
子ども司書講座の開講	小学生高学年を対象に図書館の仕事を学ぶ場をつくり、学校図書館で読書活動を推進する人材を育成していきます。	小学生期	中央図書館	新規
図書館クラブ（仮称）の設立	おすすめ本を紹介する文章の作成など、中央図書館で小学校高学年、中学校生徒を中心としたクラブを立ち上げ同年代の目線による読書活動を進めていきます。	小学生期 中学生期 高校生期	中央図書館	新規
ボランティア、職場体験の受入	中高生に、中央図書館でボランティアとして活動してもらい、または職場体験を行ってもらうことで、読書を推進する活動を体験し、読書がなぜ必要なのかを考える機会を提供します。	中学生期 高校生期	中央図書館	継続

（子ども司書講座）

第5章　計画の推進に向けて

子どもの読書活動を推進するためには、子どもたちの読書環境をそれぞれの立場から応援し、支えていく体制が必要です。家庭での役割、学校やこども園、幼稚園、保育園、そして図書館等さまざまな立場で、それぞれに持つ特性や資源を生かして、ともに連携・協力して、子どもの読書活動を推進するための体制づくりを、確立していきます。

本計画の推進にあたっては、中央図書館が事務局となり年度毎の進捗状況の管理を行い、図書館協議会において検証を行うよう努めていきます。



第6章　参考資料

１．子どもの読書活動の推進に関する法律

平成１３年１２月１２日付法律第１５４号として公布され、同日施行されました。

（目的）

第一条　この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条　子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条　国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条　地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第五条　事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）

第六条　父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）

第七条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

（子ども読書活動推進基本計画）

第八条　政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2　政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3　前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

（都道府県子ども読書活動推進計画等）

第九条　都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

２　市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

３　都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

４　前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第十条　国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

２　子ども読書の日は、四月二十三日とする。

３　国及び地方公共団体は、子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）

第十一条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附　則

この法律は、公布の日から施行する。

２．恵那市読書調査（３歳児）

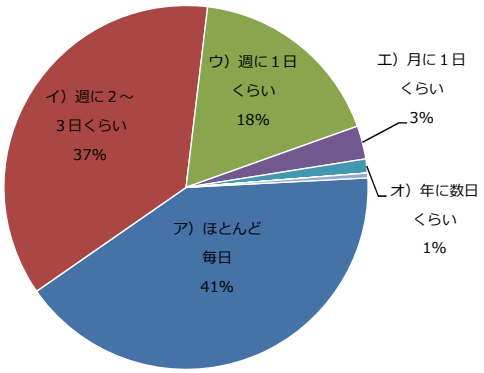
【調査の趣旨】
３歳児の読書調査では、家庭の中で読み聞かせなど絵本とどれくらい親しんでいるのか。
また、市ではブックスタート、図書館でのおはなし会など絵本の良さを知ってもらう、親しむきっかけ作りの事業を展開していますが、家庭でいつごろからどのようなとき読み聞かせを行っているのか、実態を把握し検証する。

アンケート調査	依頼数	313
	回収	238
	回収率	76%

性別	男性	123	52%
	女性	113	47%
	回答無	2	1%

1　お子さんに絵本や物語の読み聞かせをしていますか？（あてはまるものに１つ○をつけてください）

ア）ほとんど毎日	98
イ）週に２～３日くらい	87
ウ）週に１日くらい	42
エ）月に１日くらい	7
オ）年に数日くらい	3
カ）まったくしない	0
回答無	1

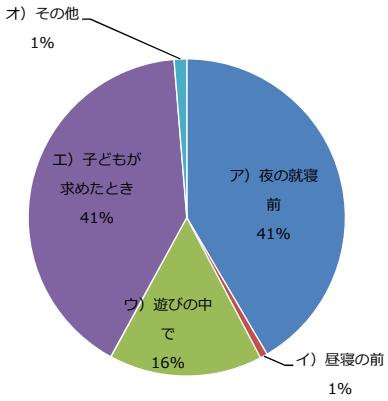


家庭での読み聞かせはどのくらい行われているのか。
ほとんど毎日（41%）、週に2～3日（37%）の回答が全体の78%であることから、家庭の中での読み聞かせがかなり浸透していると伺えます。
週に1日、月に1日、年に数日の回答が2%あるが、まったくしないという回答が無かったことから、機会があれば読み聞かせに参加していると思われます。
※乳幼児期では、絵本を手に取る意識や習慣がある。

2　どんな時に読み聞かせをしていますか？　（主なもの２つまで○をつけてください）

ア）夜の就寝前	162
イ）昼寝の前	3
ウ）遊びの中で	61
エ）子どもが求めたとき	159
オ）その他	5

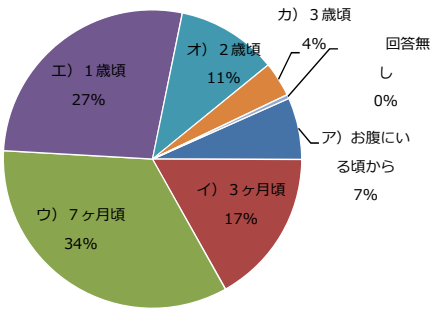
【その他意見】
夕食の後
夕食の後
上の子の本を読んでいる時に一緒に入ってきて.
仕事から帰ってすぐ夕飯前か後



夜の就寝前（41%）の割合から、問1の設問で毎日（　あるいは週に2～3日）読み聞かせをしているということからでも、ある程度習慣化されていると思われます。子どもが求めたとき（41%）、遊びの中で（16%）をあわせると98%をしめ、親子で絵本に対する楽しさ、理解が示されていると推測されます。
※絵本が、親子のコミュニケーションのツールとなっている。

3　お子さんにいつ頃から読み聞かせをはじめましたか？　（あてはまるものに○をつけてください）

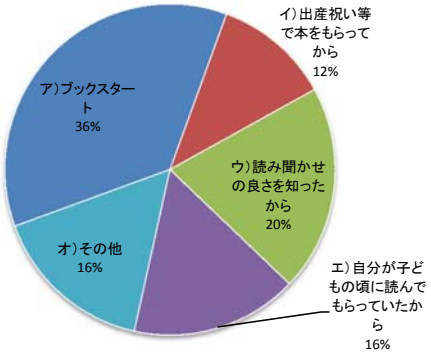
ア）お腹にいる頃から	16
イ）３ヶ月頃	40
ウ）７ヶ月頃	81
エ）１歳頃	65
オ）２歳頃	26
カ）３歳頃	9
回答無し	1



7ヶ月頃からの回答が一番多いことから、7ヶ月児健診の際に実施しているブックスタート事業の影響が大きいことが伺えます。

4　読み聞かせをはじめたきっかけは何ですか？（あてはまるものに○をつけてください）

ア）ブックスタート	95
イ）出産祝い等で本をもらってから	30
ウ）読み聞かせの良さを知ったから	53
エ）自分が子どもの頃に読んでもらっていたから	43
オ）その他	42



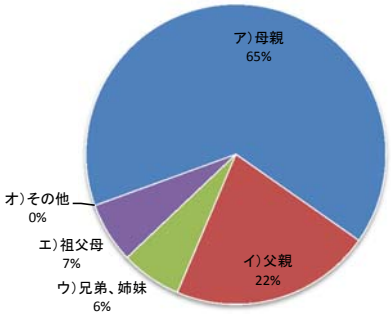
きっかけは、36%が7ヶ月健診にて行っているブックスタートとなっています。
読み聞かせの良さを知ったからとの重複回答や、その他の意見からでも良さを知った上で、意識的に子育ての中に取り入れていると伺えます。
※子どもが絵本に反応している姿から、子どもの反応と親の意識（良さ）が一致し習慣化する力となっている。

【その他意見】
上に兄弟がいるから
兄弟が本が好きで読んでいたので
3ヶ月頃から色のはっきりしたもの、模様等
本が好きで、子どもにも読んであげたいと思ったから
よいと思ったので
自分が読み聞かせをするのが好きだから
寝かしつけの為
早めに読み聞かせをするといいと聞いたので上の子（女）は生後2ヶ月～始め本が大好きな子になりましたが、下の子は読んでも聞いてくれず、興味も示さなかったので、随分おくれて、3才にやっと興味を示すようになりました。
園で借りて来るようになってから
お腹の中にいる時から読むと良いと聞いたから
寝る時のルーティーンを作る為
読み聞かせしたいと思ったため
ミルクをかった時に絵本がついてきたから
自分が絵本が好きだから
何となく
言葉の理解力をつける為
子どもが本に興味をもちはじめたから
子どもの言葉の発達が遅いので
こどもしゃれんじを始めてから
子どもが「読んで！」と言ってきた
家にもともと沢山あったから
園で本をかりてくるから
にじの家ですすめられて
きょうだいに読み聞かせしている時興味をしめすようになった
本人が読んでほしいと言ってきたから
家にお父さんが子供の頃に読んでもらった本があったから

※同種意見をまとめてあります

5　読み聞かせは主に誰がしていますか

ア）母親	220
イ）父親	73
ウ）兄弟、姉妹	22
エ）祖父母	22
オ）その他	0



65%が母親、22%が父親となっており、両親が殆どを占めています。今後は父親の更なる参加が求められると考えます。

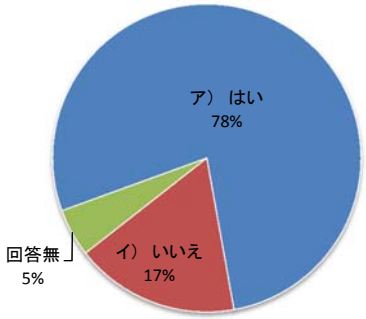
6　設問１で「カ。まったくしない」と答えた方読み聞かせをしない理由を教えてください。（おもなもの１つに○をつけてください）

ア）　兄弟姉妹が生まれて間もないため	0
イ）　本が無いため	0
ウ）　時間に余裕が無いため	0
エ）　育児に必要がないと思うから	0
オ）　読み聞かせに自信が無い	0

問1で「まったくしない」の回答はありませんでした。

7　あなたは読みきかせはすきですか。

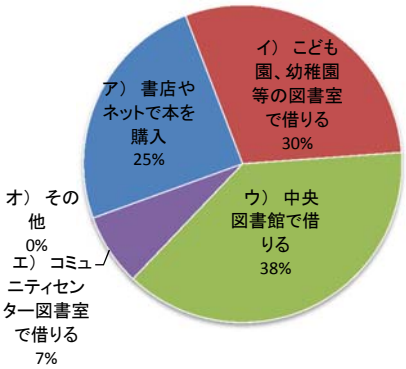
ア）	はい	185
イ）	いいえ	41
	回答無	12



「はい」が大多数を占める一方、「いいえ」も17%の回答があるため、両親への効果的なアプローチが重要であると考えます。

8　あなたは読ませたい本を選ぶとき、どんな方法で本を用意しますか。

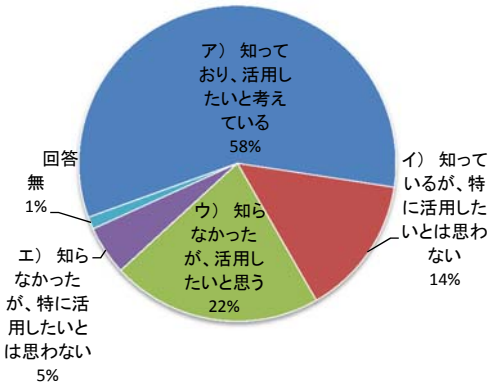
ア）	書店やネットで本を購入	84
イ）	こども園、幼稚園等の図書室で借りる	101
ウ）	中央図書館で借りる	130
エ）	コミュニティセンター図書室で借りる	25
オ）	その他	0



こども園等で借りる割合が30%と、図書館38%比して高い比率をしめています。より身近な場所であるこども園の絵本の需要がうかがえます。

9　読書手帳「えほんのおもいで※」は「ブックスタート」に続く取り組みとして、読んだ本のタイトル等を５０冊分記録すると絵本を１冊プレゼントしていますが、ご存知ですか？（あてはまるものに１つ○をつけてください）

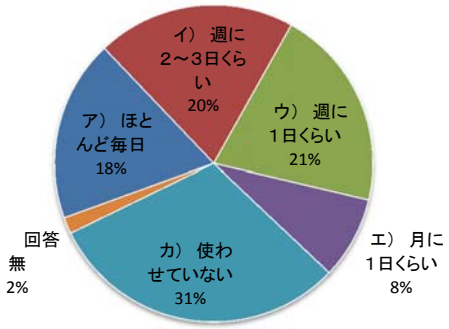
ア）	知っており、活用したいと考えている	138
イ）	知っているが、特に活用したいとは思わない	34
ウ）	知らなかったが、活用したいと思う	51
エ）	知らなかったが、特に活用したいとは思わない	12
	回答無	3



ア）ウ）の回答で8割を占めており、この事業に対する期待が伺えます。また、否定的意見イ）エ）の2割の方へのアプローチに工夫が必要と考えます。

１０　お子さんにスマートフォンやタブレットを使わせていますか？（あてはまるものに１つ○をつけてください）

ア）	ほとんど毎日	44
イ）	週に２～３日くらい	48
ウ）	週に１日くらい	49
エ）	月に１日くらい	20
カ）	使わせていない	73
	回答無	4



動画等の娯楽目的、知育アプリ等の教育目的など、使用用途は多岐にわたると思われますが、使わせている割合は7割に上ります。

【自由意見1】読みきかせを行うにあたり、大切にしていることはなんですか。

ゆっくり読むこと。
子どもが絵本に集中しできるように読むこと。
本の内容に沿えるよう声のトーンやテンポに気をつけています。少し内容が難しいかなぁと思ったときには1ページ毎読んだ文章を分りやすい言葉に換えて説明を加えています。
絵本の内容から子どもが話しを広げて行った場合はちゃんと聞く。集中せずに他のことに気が向いてしまった時は絵本に向くまで読まずに待つ。
表現豊かに読むこと。子どもの発言を受け止め応じること。子どもがしっかり耳を傾けているかどうか。
なるべく気持ちを込めて読む。
声を変えたり、分りやすく伝えるために言葉を変える事もあります。登場人物の気持ちを分って欲しいのでなるべく心情を表すようにしているつもりです。
気持ちを込めて読んだり、強弱や速さを変えたりと、少し変化を持たせて読むようにしている。
何度も同じ本を読んで欲しいと言ってくるが、本人が読んで欲しい絵本をすすんで読んであげている。内容を覚えたら、次は子ども自身で読ませたりしている。
読んで欲しい子どもの思いに答えること（途中で私が寝てしまうので）。
親自身が楽しんで読み聞かせをすること。できるだけ子どもが満足するまで読むこと（「もう一回」と言われたら読んであげる）。
子どもの年齢に合わせた本、子どもが好きそうな内容を選ぶ。ひざに座らせて読む。字を読むだけでなく絵について話しをしたり質問をしたりする。ゆっくり読む。
少し難しそうでも、本人が読みたいと言うのを読んであげる。読み終わった後に感想を聞くようにしています（難しかった、おもしろかったとか簡単な意見ばかりですが）。
「読んで。」と本を持って来た時には、手を休めて読むようにしています。
同じページでも子どもが求めている時は読むようにしている。子どもと一緒になって楽しむよう声を変えたり工夫している。
子どもが聞きたいと思うように、聞いてくれるように工夫すること。
日々の生活する中で友達との関わり方や、物の見方、こんな時には、どうすればいいのかなど、本で色々な事が学べると思うので、読み聞かせながら子供には、色々考えさせるようにしています。
膝の上に座らせて読んでいる。
少しでも内容が伝わればいいなと思ってむずかしい言葉などはアレンジして読んでいます。読んでと言われたら忙しい時でもなるべく読んであげようと気をつけています。
◎子どもがあきない様に、変化をつけて読む。◎「これはなあに？」等と聞きながら、考える・答える事が楽しめる様にしている。
子供に物語りが分かるように読んだり不思議に思ってきいてきた事にはその時に話すようにしている。
毎日子どもがよみたいほんを自分で選ばせること。自分でよみたいほんは自由によませること。
親と子がふれあう特別な時間。
想像させてどんな状況か考えてもらう。
書いてあることだけではなく、絵などを見たり色を一緒に言ったりして楽しんでいます。
テレビ等はつけない。
子供が喜ぶように。
ゆっくりと聞きとりやすい様によむ。登場人物によって声色を変える。
特にない。
一緒に楽しむこと。
3人兄弟で、寝る前1人1冊読んでと言うので、すごくめんどうと思ってしまいますが、必ず1人一冊読むようにしています。（小3、年長、年中）
あまり感情を込めないようにしています。
子どもの反応を見ながら読んでいます。
子供の様子を見ながら読むようにしています。
読みきかせの途中で、娘が「なんで？」「どうして？」「なにが？」など気になったことに対して、一緒に考えたり、それについて話をするようにしています。
こどもがどんな反応をするか、その物語や内容が好きかどうか聞くようにしている。読んでいる最中はじっと聞いていられるようにしたいと思っている。
ゆっくりと、はっきり分かりやすくよむ。
子どもがさいごまできいてくれるように、きもちをおおげさによんでいる。
子どもの反応に合わせて読む（反応が良い部分は繰り返したり、言葉の難しい部分は補足したりする）登場人物の声色を変えることもあるが、あまりオーバーにならないようにする
子供がよろこんで聞いてくれる様に楽しい本を選んで読むようにしています。
子どもに語りながら楽しく読んでいる。

子どもが好きな本をえらばせるようにして、毎日、子どもが数冊えらび私が数冊聞いてほしい本をえらんで読むようにしている。
ゆっくり、はっきり言葉を伝える様にしてます。
1対1なら膝の中に入れ触れ合いながら読んだり、子どもの読みたい本をしっかりと読む。
抑揚をつけたり物語に出てくる人物になりきったり感情を込めて読む様にしています。
子供の目線になって、ゆっくり読むようにはしています.
我が家では主に寝かしつけの時に読みきかせをしているので、ゆっくりとした口調で読むようにしています。寝かしつけ以外で読む時はできるだけひざに入れて読んでいます。
親も楽しむ。
子供のためと思わずに、自分も絵本をたのしんで読むこと。文字だけなく背景の絵も見て話す。
30分以内。
○心を込めて読む（複数人がいる時は声を変えてよむ）○できればスキンシップを心がけてヒザの上で読む。
ながら読みではなく、物語の中に入りこんで読むようにしている。
一緒にお話を楽しむ。
イスに座わらせてから読むようにしています。
ゆっくり読んでいる。寝る前に必ず一冊読むことが習慣になっていて子供が持ってきた本を読んでいる。（文章になっている本）
子どもの主体性を大事にして、一緒に声を出して読めるものは一緒に読む。就寝前は静かに、それ以外の場合は抑揚を付けたり、声を変えたり等して読んだりTPOをふまえて読み聞かせています。
子供が「おもしろい！」と感じる様に、大げさに心をこめて強弱をつけたりして、重要だと感じた文の時は目をみつめて読む様にしています。
なりきってよむ。思いを想像して込める。
子どもが興味を持てる本選びをする。例えばきょうりゅう、電車など読んでおもしろい、楽しいと思わせること。
・なるべくゆっくり読む。・子どもの反応をみながら読む。
兄弟（下の子）がいるので、ひざの中で読んであげられない時もありますが、可能なかぎり、1人ずつの時間にするようにしています。
子どもが「読んで！」と言ってきた時に、家事等していても手を止めて、読んであげるようにしています。
時々、「あ！これさー！」と本に指をさして読みきかせを止めたとき、付き合って聞いてから「じゃあ続きね…」と読み始めるようにしている。
子どもの顔の表情をみながら、たのしくよむ。
子供が気になったところは内容によらずわき道にそれてもしゃべる気が散って興味がなくなれば途中でもやめてよいことにしている。
コミニュケーションを取りながら読む。
感じょうこめる。
絵本に集中できる環境にする。（テレビはつけないｔｅｃ）
物語の本意を伝える。
子供とのふれあい。
感情豊かに「聞く」ということの大切さを学べるように読む方も、読み方に気を付けています。
読みきかせながら、スマートフォンやテレビ見ないこと。感情を込めることが大切だと思う。
いろいろと…学べる本　楽しい本　あたたかい気持ちになる本　考えられる本　たくさんの本　を読んで感じて好きになってもらえたらと思っています。
自分も楽しむこと。その時間を楽しむこと。
楽しく読むこと。
わかりやすくはっきりよむ。子供が興味をもった部分は強調していっしょによむ。
楽しんで聞けるようにそれぞれのキャラクターや登場人物になったつもりでよんでいる。
子供が読んでほしい本を読んであげる。感情、抑揚をつけてう読む。
くりかえし読むよう求められた時はなるべく応じる。ゆっくり読む。
読み聞かせの中で、子どもと共感し合う。
好きな本を選ばせて、同じ本でも何回も読んでいます。
本は子供に選ばせる。
子供のペースに合わせて読む。質問されたら答え、ページを戻したがったら戻した所から読み直す。
読みたいものを読みたいと言ったぶんだけ読みます。細かい字でも読みます。4歳ですが「ももいろのきりん」をじーっと聞いてます。

気持ちが伝わるように！！！一緒に物語の世界を想像できるようにと思っています。
子供と一緒に絵本を楽しく読む。同じ本を何度も読んでほしいと言われれば何度も読む。
話の内容が分かるように、言葉の意味を確かめながら読む。1人1人の読んでほしい本を読む。（まとめてではなくて）できるだけ、だっこしたり、ひざにのせて読む。
質問したり、アドリブを入れて、声の大きさ、声を変えたり。
子どもが絵をじっくり見て、内容を把握できるように、ゆっくり読んでいる。ページを戻りたい時、進みたい時は自由にさせる。
ゆったりとした気持ちで、優しい気持ちで読むことを気をつけている。
早口になりすぎないよう、子どもの聞きとりやすいペースで読む。登場人物になりきって楽しんで読むこと。
あまり、よくようをつけない。子どもに本を読む時はなるべく膝の中で。
子どもが読みたい本を基本的に選んでいるが、たまに、私が読みたい本もおりまぜて、いろんな本にふれられるようにしています。
1人1冊好きな絵本を読んであげる。
出来るだけ時間をつくり、ゆっくり読むようにしている。
子どもと話しながら読むこと。
ゆっくりと落ちついた環境でよむこと。
感情をこめて大げさにセリフを言うこと。
子どもをひざの上にすわらせてスキンシップをとりながらよむ。
強弱をつけたり、自分も一緒に楽しく読む。
感情豊かに読むようにしている。
無理に全部読まない。（子どもがページをとばしたら、戻らずそこから読む）
読み手の間や抑揚をつけること。文章の少ない絵本は絵をじっくり見せたり、気がついてほしいポイント○○はこんなことをしているね、等ヒントになるようなことを伝えている。
子供が聞きやすいようにゆっくり読んだりその内容について会話をするようにしている。
子どもが理解できているか顔を見る。読んだ後、「○○だったね」など感想を言う。
成長に合わせて、読むスピード、抑揚・言葉を変える等々。時々顔（表情）を見て、反応を見ながら読んでいる。
ねる前のきまり的なかんじで、自然なこととして、いちづけていきたいです。
子どもが本を好きになってほしいという気持ちを持って読むこと。
子どものペースで読むこと。
質問したり、考えたりできるように読みきかせをする。
楽しむ。子供の感じる気持ちを大事する。
読みきかせをしながら、ボディタッチすること。本を物語りに合わせて動かしたり、声をかえたりして楽しめるようにすること。
読み聞かせをすることで、子どもが絵本に興味を持ってきた。これからも続けていきたい。
読む時に強弱を付けたり、主人共になって読んだりしている。絵だけで分かりにくい気持ちなどは、代弁して言ったりもする。（～思ってるのかなーとか）
ゆっくり読む。おおげさに読んだりする。
楽しそうに読む。おもしろい所は一緒に笑いながら読むと子供も私の顔をニコニコしながら見て更に楽しく聞いてくれる。
自分もおもしろいと思える本をえらぶことです。
ただ読むだけでなく、情景などを見てお話ししたりしています。
子供が分かりやすく、アレンジして読んでいる。
早口にならないように読む。
読まなくてもいいので図書館で本を借りてくる。寝る前は、図書館の本を読むようになりました。
子どもとくっついて読みきかせをすること。
子供の反応や感想を聞きながら、読み聞かせをするようにしています。
特にこだわりはなく、こども園や小学校で子どもが選んで借りてきた本を読んでいます。寒い時期はひざに乗せて読むことが多いです。
絵を見て文章にないことを質問したりして楽しむ。
声のトーンや早さなど、子どもが、気が向けれるように読んでいますが、あまり、くいつきはよくない時もあります。
子供を絵本の世界に集中させ、その絵本から伝えられる情報や知識をできる限りたくさん感心させて伝えようと努力している。

子供の反応を見ながら読む。大きくハッキリとした声を出す。ゆっくり読む。ふきだしを、なるべくキャラクターになりきる。見やすい角度を意識する。
ただ文章を読むだけではなく途中で子供に質問したり考えさせながら読むようにはしています。
感情豊かに話すようにしています。
子供が聞き取りやすいように、ゆっくり・はっきりと読むようにしています。
楽しそう、きれいな絵。
気持ちをこめて読むことを心がけている。
子供と一緒に楽しく読みきかせできるように気よつけています。
落ち着いて聴けるように、ゆったりと読む。子どもが望めば、同じ本を何度でも読む。
棒読みで読むこと。時間によって本の種類を変える。子供の反応を見ながら読みすすめる。
子どもが絵本のお話の中に入っていき、登場人物と会話したり、手助けしたりするのでその時間を大切にしている。
してあげたい気持ちはすごくあるがなかなか時間がゆっくりとれず読んであげられない。子供に向きあう時間をとってあげられるように意識する。
気持ちを込めて読んでいます。

【自由意見2】子ども読書推進計画に対する意見をお聞かせ下さい。

こども園で週2回絵本が借りることができるので、わざわざ図書館に行かなくてもよく助かります。
計画の詳細を知らずにいます。すいません。恵那の図書館はイベントがいろいろあり子どもたちが楽しめる内容も多いので、よく利用させて頂きます。有り難うございます。県内の他市の友人からも「恵那市は図書館が充実しているらしいね」と言われ評判が広がっているんだなぁと感じます。
子どもが本を読むきっかけを作るのは良い企画だと思う。
ゲームやスマホ、TV（DVD)と電子機器に触れる機会は沢山あるのに、本はだんだんと触れる事が減っていき読みきかせもなくなっていき、本＝めんどくさい（読書感想文等で）というのが正直（小学校高学年）大半だと思います。脳の活性化とか、難しいことは分りませんが、本を読んでいろんな世界を想像すること、知ることは頭や人としての豊かさなので、ブックスタートの次の興味を引くことがこども園以外でも何かあればいいと感じます。ワーワーしてしまう子ども連れでの図書館は一歩退いてしまうのです…。市役所や図書館、公園等での外での本のイベントがあると楽しそうかなと思います。
子どもが絵本を好きになり、自分から読むようになるには、まず母親が絵本を好きにならなくてはいけないのでは…と思います。子ども向けの読み聞かせと母親向けの読み聞かせ、両方、体験できるといいなあと思います。
恵那市は子どもの読書にとても力を入れていると思います。ブックスタートで絵本をいただけた時嬉しかったです。「えほんのおもいで」でもう一冊絵本をいただけて子どもがとても喜んでいました。ありがとうございます。
ブックスタートや司書によるこども園読み聞かせ、親への「えほんのおもいで」の説明などで、コンスタントに本に対する重要性を確認できるので、生活の中に読み聞かせを取り入れる良いきっかけとなっている。
絵本を50冊読むと本をプレゼントしてもらえるのは親としてはとてもありがたいし、子どもも沢山本を読むきっかけとなるのでとってもいいと思います。
すきな本を読んで、なおかつ本が1冊もらえたことがとてもとても嬉しかったようでもらった本を何度も読んでいます。ただ本が好きな子には50冊はあっとゆう間で、本の冊数が増えてもいいので、もう2，3回本がもらえるのが続くと、子どもの本を読みたい意欲が増えていいのにと思いました。
いいと思います。
特にありません。
絵本のプレゼント等とってもありがたく、活用したいと思っています。図書館にこの本があったら良いな…と思う事が時々あります。
特にありません。
月に2度ほど中央図書館で絵本を借りて読んでいましたが「えほんのおもいで」は知りませんでした。もったいないことをしました。
中央図書館についてなんですが、子どもが車に乗っていても本が返しやすいように、休館日にあるポストがあるとうれしいなと思います。
図書館や元気プラザなど読みきかせの機会がたくさんあってうれしいです。なかなかタイミングが合わなくていけないこともありますが、図書館マルシェのイベントなどでもエプロンシアターや子ども向けの読みきかせもとり入れてあって良かったです。いろいろな本と知り合えて、親子でこれからもたのしんでいきたいです。
ブックスタート、えほんのおもいでを活用しているが、その本を選んだ理由、その本の良いところを教えてもらいたい。本の内容のとらえ方は人それぞれだが、選んだ方の意図を知りたいと思った。
7ヶ月健診のブックスタートやえほんのおもいでなど本を読むきっかけとなるので有り難い。えほんのおもいでの冊子に貼るシールを図書館で出してもらうのを忘れてしまうのでシールはいるか確認してもらえると助かる。
絵本や楽しい本は子供ばかりでなく大人の心も豊かにしてくれそうで、身じかに良い本がある状況だと良いなと思います。

子供に本を読ませる（今は、読みきかせ）はとても大切な事だと思います。私は子供の頃本、読書が好きではなく、あまり本を読みませんでした。今ではあまり文章を書くのも、しゃべるのも漢字も苦手で…。もっと子供の頃から読書が好きであったらどんなに良かったかと思っています。なので、子供には本が好きになってほしいです。この計画は、すごく良い事だと思います。子供達に本をたくさん読ませてあげてほしいです！！
本を読む事で想像力、発想力を育てる事が出来るのでとても大切だと思います。色んな本をたくさん読めれるといいと思います。
県外から転入してまいりましたが、恵那市の中央図書館は何冊までという上限もなく、子どもが好きな本、私が気になる本を一度に貸りられるのが良いです。読書手帳ですが、図書館では貸りた本のシールがあると冊子に書いていますが、貸りた際に一覧のレシートの様なものはいただいていますが、シールはこれまで渡された事がなく、手帳に書くのも手間なので、いまだに活用できていません。もしレシートのような紙をそのまま貼るのならば、私の（親の）貸りた本と一緒に印字されているので分かりづらいですし…。薬局に持っていって渡すと記録してくれるお薬手帳の様な感じにしていただけると助かります。長々と失礼しました。
4月に他県から引っ越して（戻って）きましたが、恵那の図書館の子どもの本コーナーがとても豊かで、質が高くて、何冊でも借りられて嬉しいです。またイベントなどを楽しみにしています。
パンフレット等配って頂き見てはいます。（恵那中央図書館とか）"こんなんやってます""来てみて下さい""詳しい事はこちらの紙に"話は聞いてはいても、行く！という気持ちがなかなかもてずにいてブックスタートで頂いた本のシリーズで集め読んであげても、遊びに夢中になってしまい、本棚にあるだけになっています。明智でも読み聞かせを多く行って頂けたら…かと思いました。
本を読むということは、子どもの想像力を高めたり、語彙や知識を増やす事で、学ぶことへの意欲を高める事にもつながり、社会へ出る為の選択枝を増やす効果もあると思うので、これからも、子どもが読書が好きになるような方策を計画、立案して行っていただけるとありがたいです。
時間のない時はどうしても読みきかせができないのですが、子供も自分なりに読んでいる風で（まだ字がよめないため）絵に合わせて読みきかせをしてくれるのを見て、想像力が豊かになってきているなあと思いました。絵本をひらかない日はないので習慣化するのはとてもいいことだと思います。
是非よろしくお願い致します。よんであげたいけど後まわしになりがちなので、地域などで活動があったりよまざるおえない環境にしてもらえると助かる。
こども園で本を借りてくるのですが、図書館の本もこども園をとおして借りることができたらいいなと思います。
いいと思います。発想力、想像力、文字を読む力がついてくれるといいなと思います。
本をよむ機会をつくるのにとてもよいことだと思います。
とてもいい取りくみが多いと感じています。
ブックスタートで頂いた「がたんごとん」「じゃあじゃあビリビリ」は、子供たちも大変よろこんで好きな絵本の一冊なのでありがたいです。
絵本でいろんな物語を体験できるのでたくさん推進してもらえたら良いと思う。
子どもに絵本を読み聞かせる事はすごくいい事だと良く聞くので7ヶ月になったら1人1冊絵本がもらえたり、図書館だよりみたいなのが配られたりする事はとてもいい事だと思います。
いいと思いますが、結局親がやるか、やらないか。になってしまいます。読書カードとか作って、スタンプ押したりすると、子供は興味もちますよね。
無料絵本が配布されるとうれしいです。
最近、子供がいっしょに〝まぜたり〟〝入れたり〟〝ふーっしたり〟参加できる絵本が好きなので、小さいころにこういう本にふれると、本が好きになる気がします。そういう本のコーナーがあるといいなあ。
子供たちが本を身近に感じられるのはとてもいいことだと思います。図書館の充実ぶりやこども園での絵本の貸し出しがとてもありがたいです。小学生や中学生になっても本への興味を忘れないで欲しいです。
とても良い事だと思う。

子どもたちが本にたくさんふれ合えるといいなと思います。大人も本の楽しさを知ることが大事ですね。
とても良い事だと思います。
時間がなくて、図書館へ行く時がつくれなくて困っている。子供たちをつれていくと、うるさくなってしまい注意をうけるので子供をつれていかない方が楽だと思っている。子供をつれて、楽しく本を借りられる機会を増やしてほしい。健診などへの出張図書など子供のあつまる所に来てほしい。
図書館で子どもがさわいでしまった時に注意されて以来、全く行かなくなりました。子どもがさわぐのは仕方ないし、お互いさまなところもあるし、一般の利用者さんに迷惑ということなら扉で区切る等の工夫もできるかなと思います。図書館は静かにするところだということも教えるべきだと思いますが、小さい子がいて図書館に行けないという人は私だけではないです。
特になし。
恵那市の図書館は、いろいろな企画をして下さる楽しんで参加できます。これからもよろしくお願いします。
ブックスタートで本が頂けた時、本当に嬉しかったです。子ども達の為でもあるし、親子の大切な時間として読み聞かせ→親子読書へと、大切にしていきたい。
毎日絵本を借りてくる東野こども園の取り組みは、とても素晴らしいと思っています。絵本にふれる機会が日常にある環境はありがたく、図書館に行く機会にも様々な絵本を見つけてくるようになりました。
本好きな子に育てるために、いろんな取り組みをしていきたいです。イベントなどあるとうれしいです。
とても良い計画だと思います。私も小学生の頃に本をたくさん読んで先生にほめてもらったことを思い出しました。
上の子で、1冊プレゼントしてもらったので、また利用したいです。本がほとんど持っているものなので、種類を増やして欲しいです。（プレゼントの）
ブックスタートなど本がもらえるのは、本当に嬉しい。7ヶ月の時にもらった本は、今4才になった子どもは、まだ読んでいます。もうボロボロです。4才の子どもは、こんどたくさん本を読んだらもらえる活動の方をかんばっています。こうゆうのを増やしてもらえると、たくさん本を読むと思った。
自分も、子供の頃から絵本を読むのが習慣で、大人になってからも本を読むようになったので、とても良い事だと思います。
絵本を見る事はとてもいい活動だと思っています。子供達も本に触れる事が多いので、自ら読みたい本をえらび、本を読む習慣ができています。
読むことを苦手にしてる（楽しくよむ方法とか）参考にできるイベントをひらいてほしい。
本に関わるきっかけとなる事は、ありがたいと思っています。なかなか図書館にも行けないので。
素晴らしい計画だと思います。大賛成です。
とても良い事だと思う。自分が本が好きなので、子供にも本好きになって貰いたい。本は日常生活に必要不可決、本を読んで情緒豊かな子になって欲しい。　TVやタブレットよりもよほど為になると思う。文字だけではなくマンガでも立派な本だ、当たり前に本を読んでいって欲しい.
すごく良いことだと思います。
子供が楽しく本を読んだりして、本に興味がわいてくれるのでいいと思います。
中央図書館の絵本は探しづらいです。本を探すPCも近くにないので、読みたい本があってもあきらめてしまいます。
また本がもらえるきかくがあると嬉しいです。50ポイントたまった時、子供も親も達成感を味わえて本が頂けてすごく喜んでおりました。気に入って毎日読んでいます．ありがとうございました。
幼い頃から沢山の本と出会いいろんな世界を知ってほしいと考えているのでとてもありがたく思っています。「えほんのおもいで」もとてもいい取り組みだと思い、実施しています。

３.恵那市の学校読書調査結果（小学校4年生～中学校3年生対象）

【調査の概要】

対象は、市内の小学校４年生から中学校３年生までの全員とした。
市内各小中学校に協力を願い、６月下旬から７月上旬にかけて、クラス単位で担任教師による説明を加えながら記入する方法で実施した。
ここにまとめた結果は、「第3次子どもの読書活動推進計画」の検証と課題を確認する基礎資料として使用することとなる。また学校において、読書指導の参考として活用いただければ幸いである。

アンケート調査

	今回	前回	前々回
依頼数	2649	2,931	3,155
回収	2396	2,812	3,051
回収率	90.4%	95.9%	96.7%

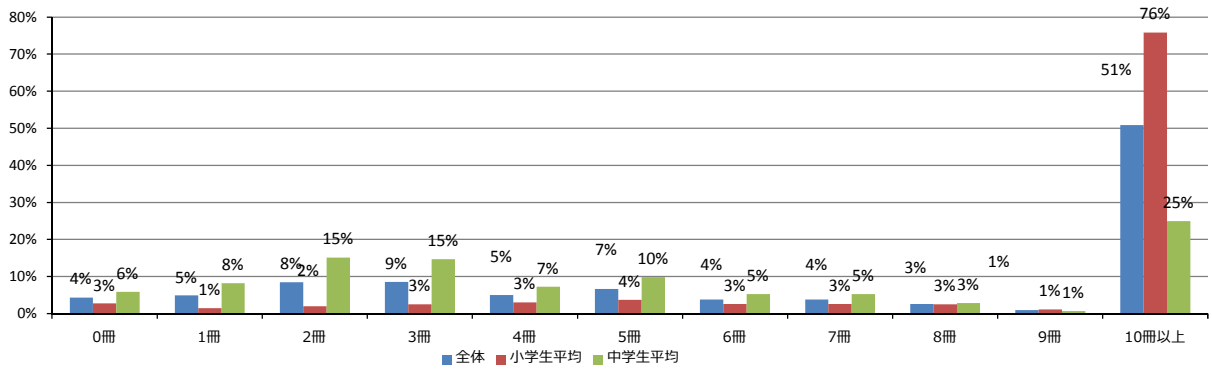
性別

男性	1196	1,496	1,553
女性	1158	1,315	1,498

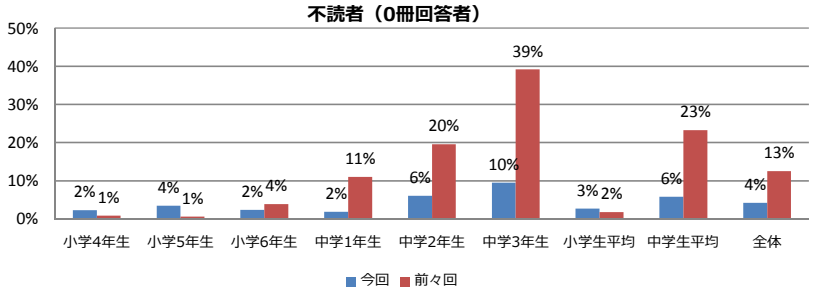
中学校	1174	1,394	1,533
小学校	1224	1,373	1,518

小４年	小５年	小６年	中１年	中２年	中３年
389	422	413	388	376	410

１　あなたは先月１ヶ月間に本を何冊ぐらい読みましたか。教科書・学習参考書・マンガ・雑誌をのぞく。１冊も読まなかった人は0と書いてください。



	0冊	1冊	2冊	3冊	4冊	5冊	6冊	7冊	8冊	9冊	10冊以上
小学4年生	2.3%	1.3%	2.1%	2.3%	3.4%	3.1%	1.6%	1.6%	2.3%	1.8%	78.2%
小学5年生	3.5%	1.4%	1.6%	2.6%	2.6%	4.7%	3.3%	3.3%	2.8%	0.5%	73.8%
小学6年生	2.4%	1.7%	2.1%	2.6%	3.1%	3.3%	2.9%	2.9%	2.4%	1.2%	75.5%
中学1年生	1.9%	1.9%	4.6%	10.5%	7.0%	11.1%	9.5%	9.5%	6.2%	0.5%	37.3%
中学2年生	6.1%	6.9%	20.5%	16.0%	8.5%	10.6%	2.7%	2.7%	1.9%	1.1%	23.1%
中学3年生	9.5%	15.8%	20.3%	17.7%	6.2%	7.9%	3.6%	3.6%	0.5%	0.5%	14.6%
全体	4.3%	4.9%	8.5%	8.5%	5.0%	6.7%	3.8%	3.8%	2.6%	0.9%	50.9%
小学生平均	2.7%	1.5%	2.0%	2.5%	3.0%	3.7%	2.6%	2.6%	2.5%	1.2%	75.8%
中学生平均	5.9%	8.2%	15.1%	14.7%	7.2%	9.9%	5.2%	5.2%	2.9%	0.7%	25.0%

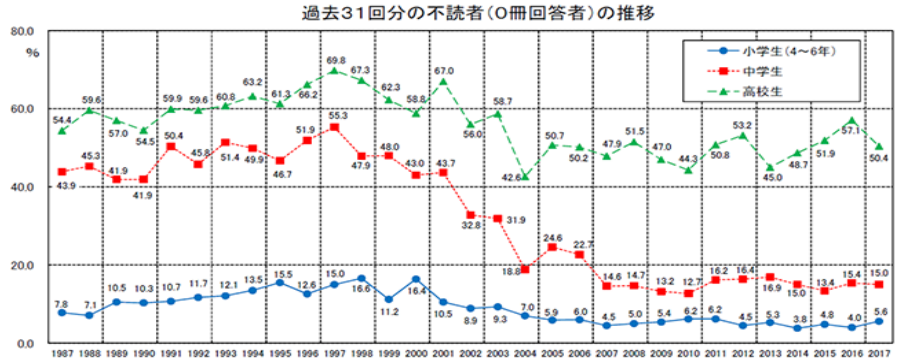


※前回調査は1週間の期間であったため、表示項目から削除しました。

全国平均に比しての不読者

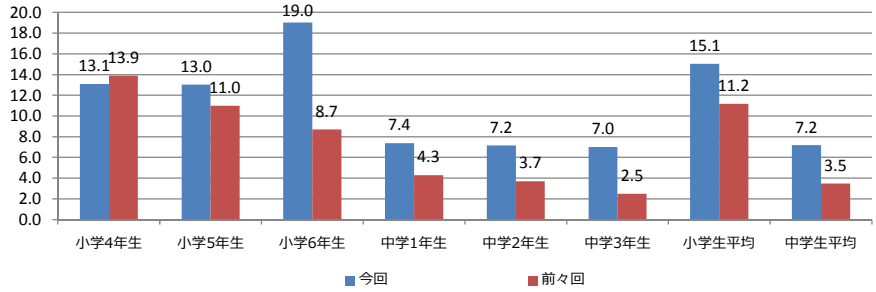
小学生（4-6年生）の不読者率は全国平均の5.6%に比べ2.7%、中学生は全国平均15%に比べ5.9%と低い数値となっています。

また、10年前に比べ朝読書等の活動などにより、特に中学生において不読者が格段に減少しています。



全国学校図書館協議会　「第63回読書調査」より抜粋

平均読書冊数



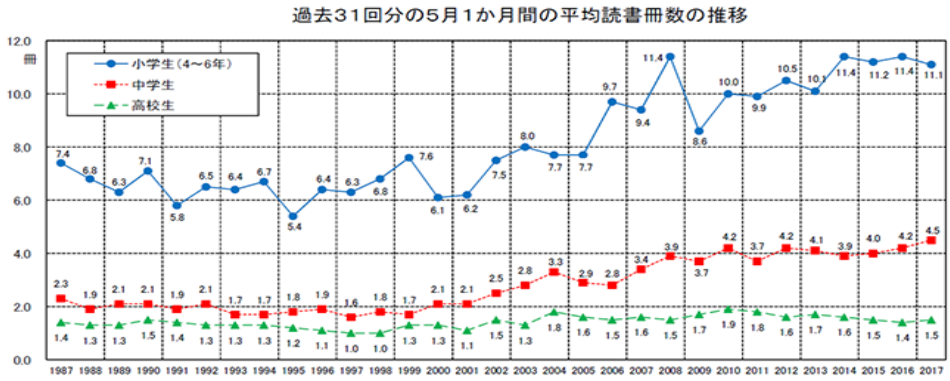
※前回調査は1週間の期間であったため、表示項目から削除しました。

平均冊数の増加

・前々回に比べ、読書量は増加している。

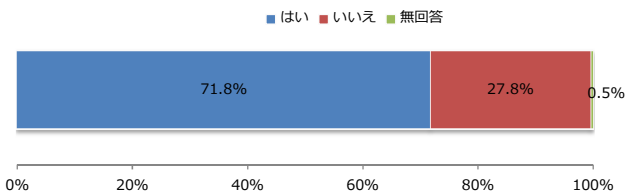
特に小学6年生・中学生において、おおきな変化がみられる。学校での一斉読書の効果か。

全国平均小学生11.1冊に対し恵那市の小学生は15.1冊、中学生は全国平均4.5冊に対し恵那市の中学生は7.2冊と高い水準にある。



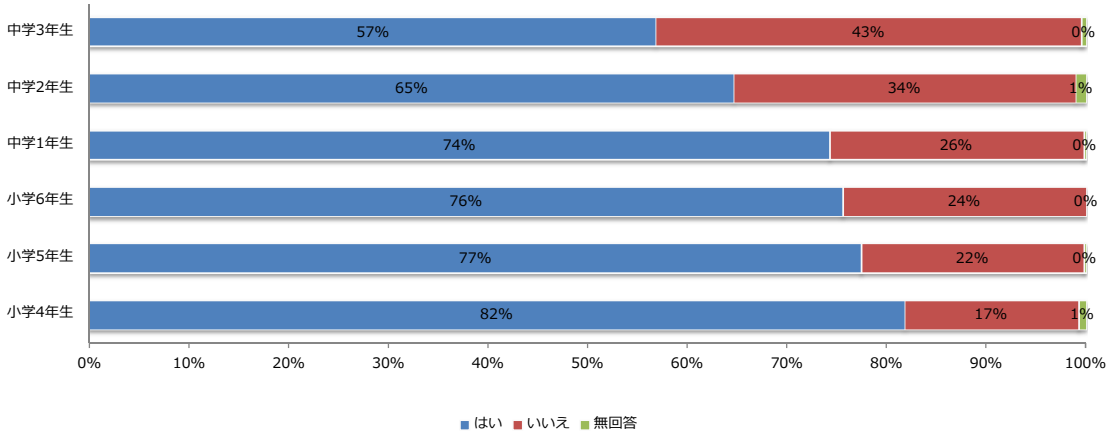
全国学校図書館協議会　「第63回読書調査」より抜粋

２　あなたは先月１ヶ月間に自分からすすんで本を読みましたか。（教科書・学習参考書・マンガ・雑誌をのぞく）。

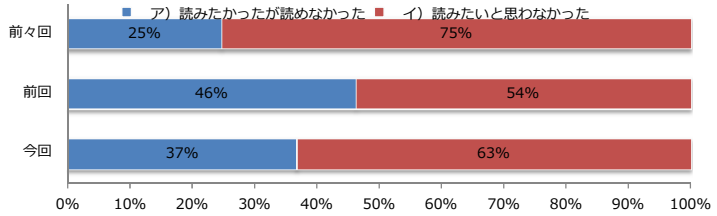


年齢があがるほど読書割合が下がっていく実態がわかる。
部活動や受験勉強の影響や、SNS等に費やす時間が増えているのでは。

学年別内訳



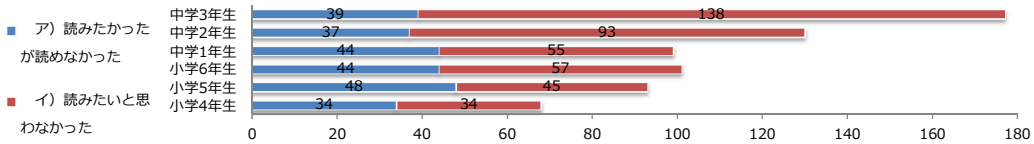
３　本を読まなかった理由はなぜですか。どちらかに○をつけてください。　（２の質問で「いいえ」と答えた人だけ答えてください）



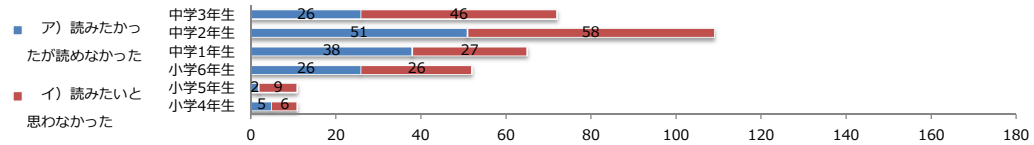
不読者の割合・全体数が減った中、
　読まなかった理由で　　読みたかったが読めなかった　割合は減
　　読みたいと思わなかった、割合が増
学年が上がるにつれ「読みたいと思わなかった」割合が増える。

学年別内訳(人数)

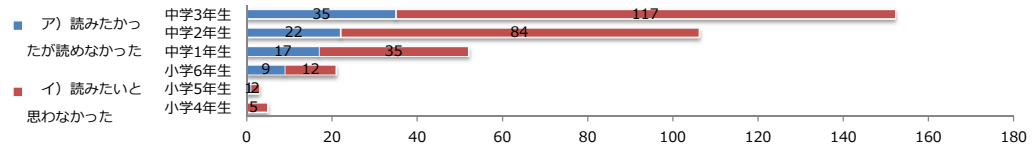
■今回



■前回

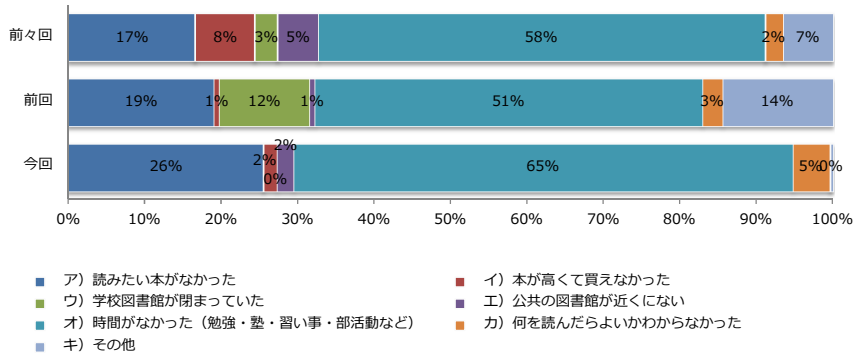


■前々回



４　３の質問で、ア）「読みたかったけれど読めなかった」を選んだ人に質問します。その理由はなんですか。（どれか１つに○をつけてください）

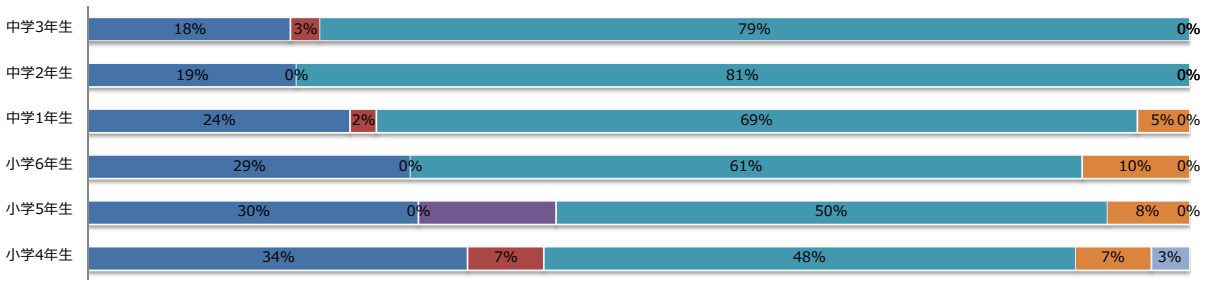
前回は、3つまで選択。今回は1つを選択。



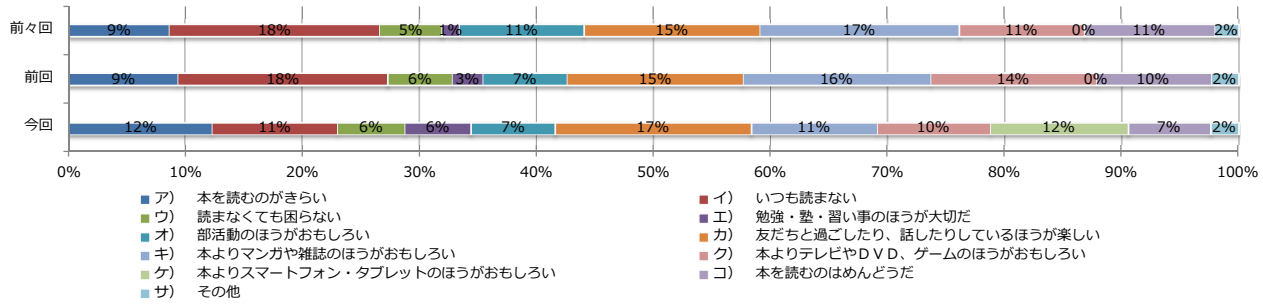
読みたかったが読めなかった理由
・時間がなかったが圧倒的に多い。学齢が上がるにつれ「時間がなかった」の増。

読みたいと思わなかった理由
前回前々回と割合に大きな変化はない。

今回回答結果（学年別）



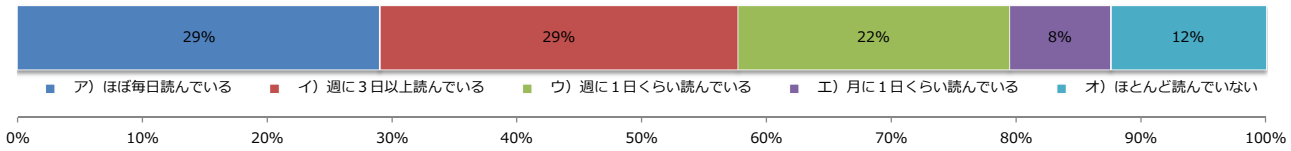
５　３の質問で、イ）「読みたいと思わなかった」を選んだ人に質問します。その理由はなぜですか。（あてはまるものに３つまで○をつけてください）

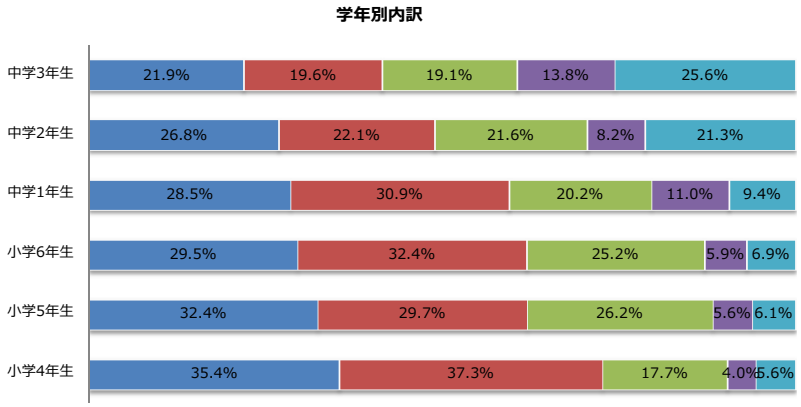


※今回のアンケートより3つまでの複数回答としました。又、「スマートフォン、タブレットのほうがおもしろい」選択項目を追加しました。

今回の回答内訳	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	計
ア）　本を読むのがきらい	5	16	24	16	35	35	131
イ）　いつも読まない	7	14	11	13	18	51	114
ウ）　読まなくても困らない	6	5	6	5	18	22	62
エ）　勉強・塾・習い事のほうが大切だ	8	8	9	6	11	18	60
オ）　部活動のほうがおもしろい	2	2	5	14	20	34	77
カ）　友だちと過ごしたり、話したりしているほうが楽しい	16	13	23	18	46	63	179
キ）　本よりマンガや雑誌のほうがおもしろい	8	9	15	15	21	47	115
ク）　本よりテレビやＤＶＤ、ゲームのほうがおもしろい	13	14	23	8	20	25	103
ケ）　本よりスマートフォン・タブレットのほうがおもしろい	5	8	17	18	34	44	126
コ）　本を読むのはめんどうだ	7	4	11	8	15	30	75
サ）　その他	1	5	3	8	4	5	26
計	78	98	147	129	242	374	1068

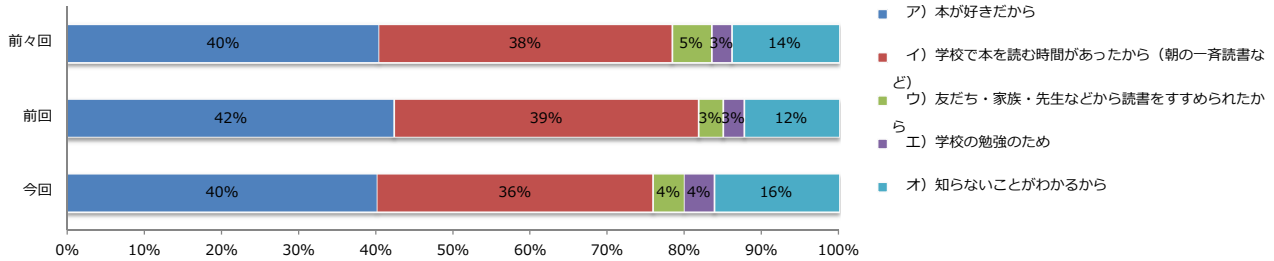
６　あなたは、自分からすすんで、どのくらい本（電子書籍を含む）を読んでいますか。（教科書・学習参考書・マンガ・雑誌をのぞく）

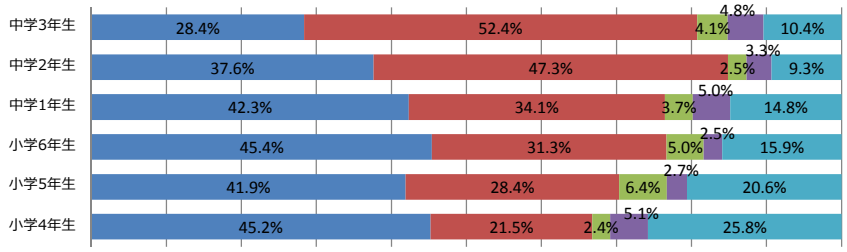




自主的にどのくらい本を読んでいるか
問２の内容と同じく「ほぼ毎日」・「3日以上」で約6割となる。他質問と同様に学齢が上がるほど読書離れが進む実態が明らかとなっている。

７　あなたが、本を読む理由は何ですか。



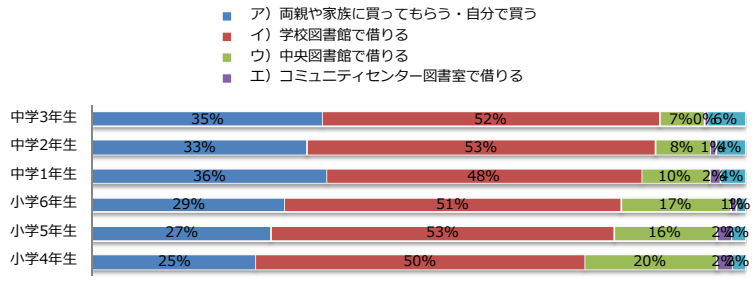


大まかな割合は前回、前々回調査と変わらない。
前回調査と同様に「学校で本を読む時間があったから」の割合が高学年にいくほど大きくなる。

↓

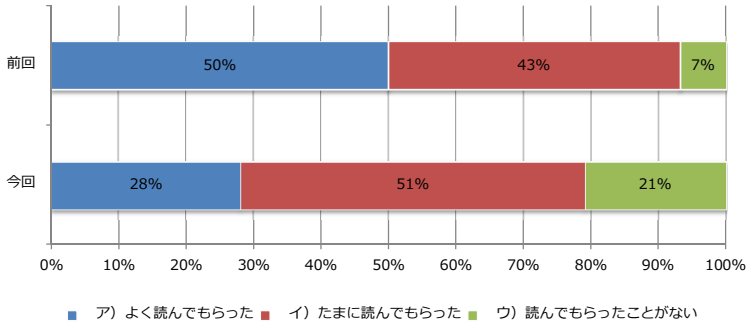
朝読書等、学校での読書機会の割合が増加、自発的な読書割合が減少するとおもわれる。

８　あなたは、本を読むとき、どんな方法で本を準備しますか。（おもなもの２つまで○をつけてください）



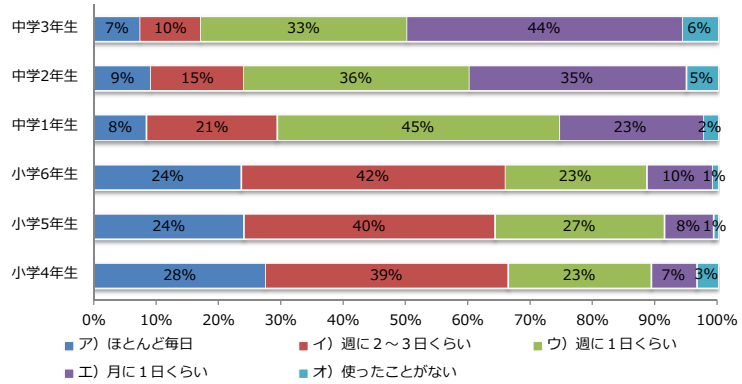
全ての学年で学校図書室の割合が５割以上に達し、学校図書室が充実してきていると伺われます。また、学齢が上がるほど中央図書館の利用率が下がる実態が浮き彫りとなりました。

９　あなたは、家族の人から本を読んでもらったことがありますか。（どれか１つに○をつけてください）



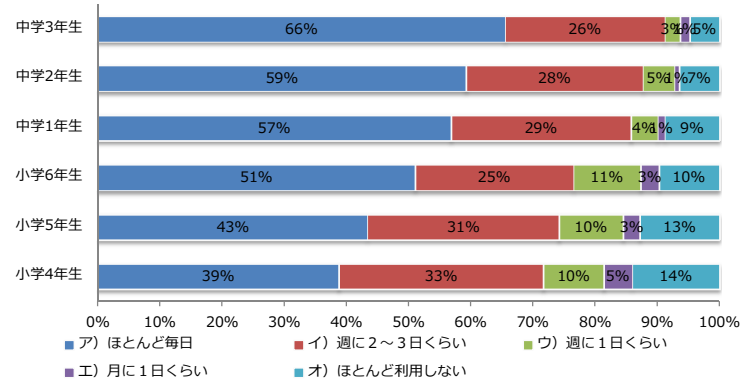
小さい頃よく読んでもらった、たまに読んでもらったの割合は8割弱、前回から比べると読み聞かせ習慣が若干低下しているのが伺われます。

10　あなたは、休み時間に学校図書館で、どのくらい本を借りますか。（どれか１つに○をつけてください）



年齢が上がるにつれ、自発的な読書習慣がうすれている実態がうかがえます。

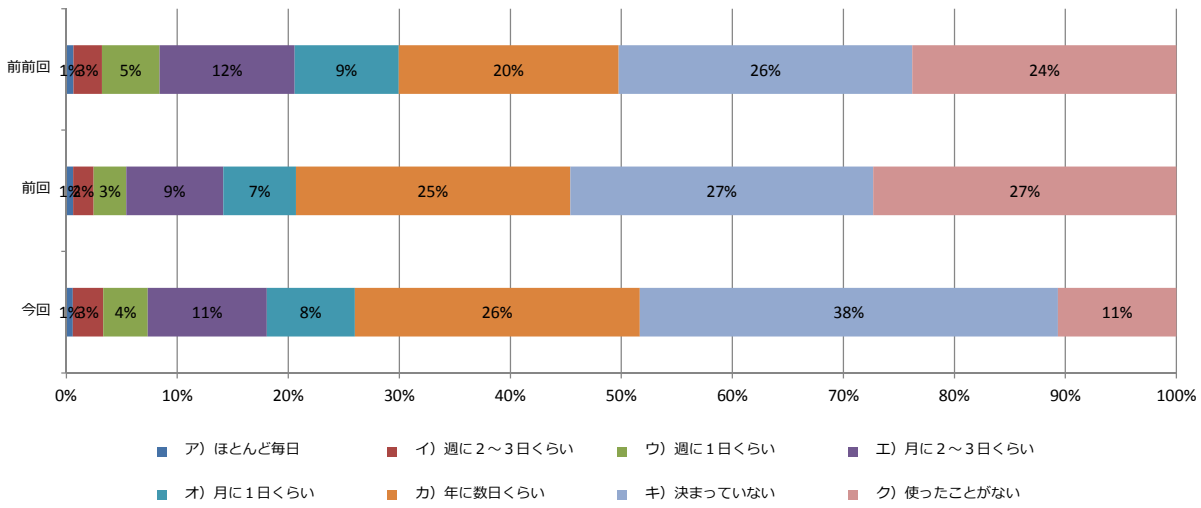
11　あなたはふだん家でゲーム、動画、マンガ等でスマートフォン・タブレットをどのくらい利用していますか。（どれか１つに○をつけてください）



年齢が上がるにつれ使用率が上がります。中学3年生では約9割の生徒が毎日もしくは週２・３日使用しています。

中央図書館の利用割合では、年度推移の大きな変化は認められませんでした。しかし、「使ったことがない」割合は前回調査27%に対して11%と半分以下となっています。

12　あなたは中央図書館をどのくらい利用しますか。（どれか１つに○をつけてください）



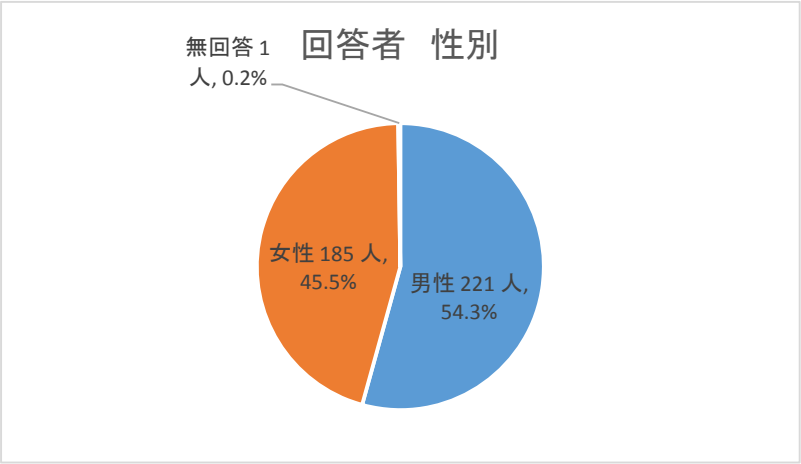
4.市内高等学校読書に関する調査　統計結果

平成30年9月（市内高等学校3校　2年生）実施　407名より回答

質問内容	回答	実数	割合

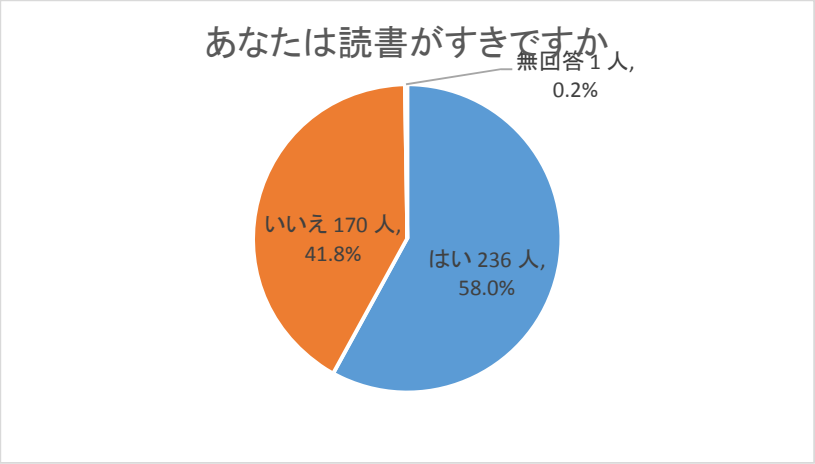
回答者　性別

男性	221 人	54.3%
女性	185 人	45.5%
無回答	1 人	0.2%



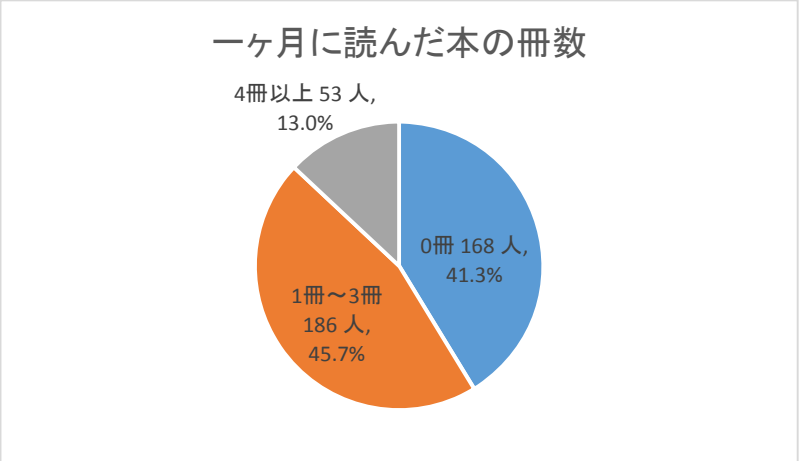
問1　　あなたは読書が好きですか

はい	236 人	58.0%
いいえ	170 人	41.8%
無回答	1 人	0.2%



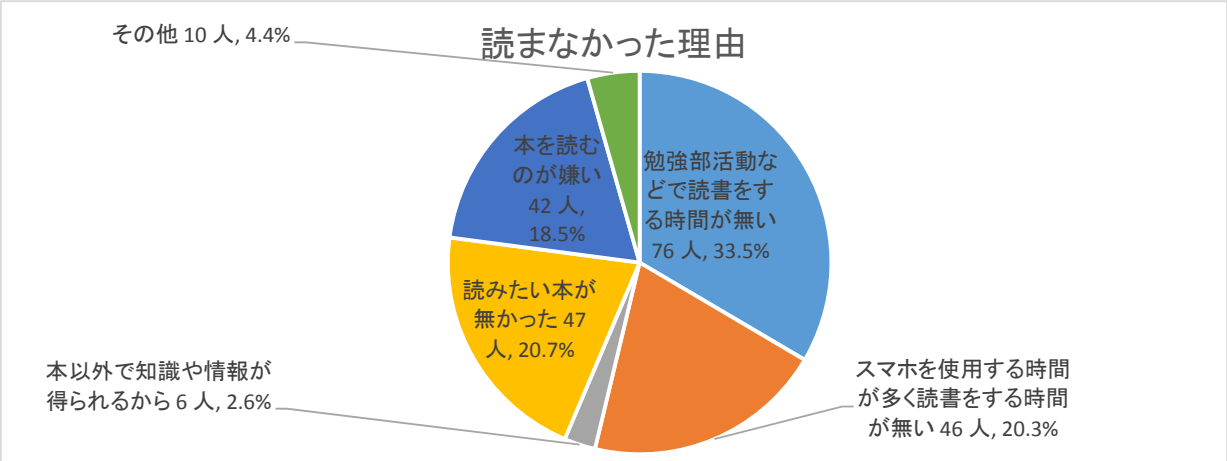
問2　一ヶ月に読んだ本の冊数

0冊	168	人	41.3%（不読率）	全国平均 50.4%
1冊～3冊	186	人	45.7%	
4冊以上	53	人	13.0%	
内　電子図書の利用人数	31	人	7.6%	



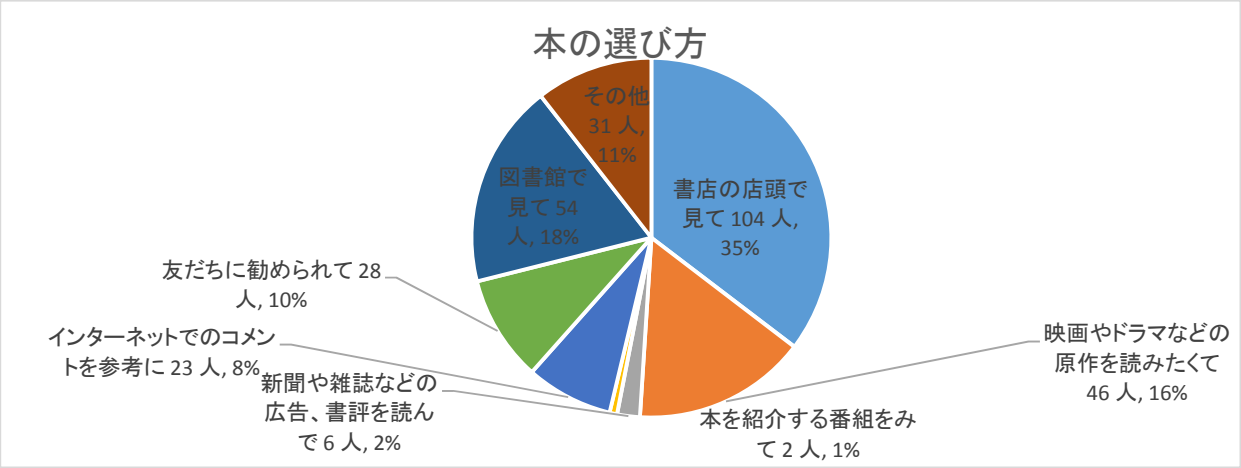
問3　読まなかった理由（複数回答）

勉強部活動などで読書をする時間が無い	76	人	33.5%
スマホを使用する時間が多く読書をする時間が無い	46	人	20.3%
本以外で知識や情報が得られるから	6	人	2.6%
読みたい本が無かった	47	人	20.7%
本を読むのが嫌い	42	人	18.5%
その他	10	人	4.4%



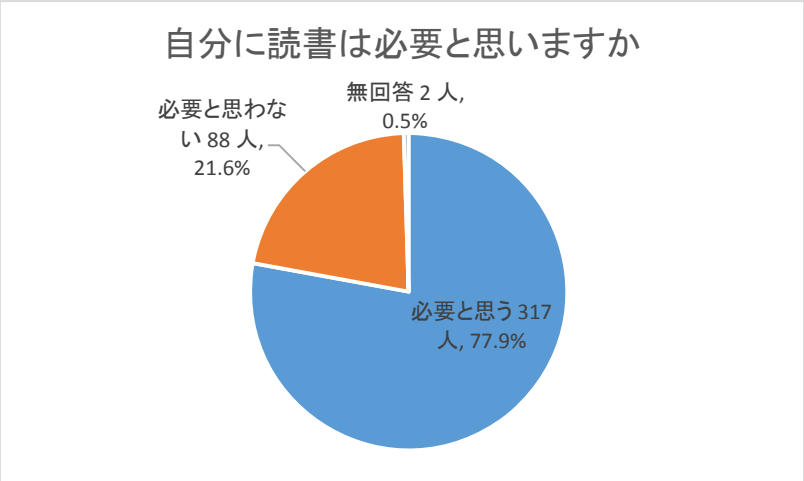
問4　　本の選び方（複数回答）

書店の店頭で見て	104 人	35%
映画やドラマなどの原作を読みたくて	46 人	16%
新聞や雑誌などの広告、書評を読んで	6 人	2%
本を紹介する番組をみて	2 人	1%
インターネットでのコメントを参考に	23 人	8%
友だちに勧められて	28 人	10%
図書館で見て	54 人	18%
その他	31 人	11%



問5　　自分に読書は必要と思いますか

必要と思う	317 人	77.9%
必要と思わない	88 人	21.6%
無回答	2 人	0.5%



５．恵那市子どもの読書活動推進計画策定委員会

（１）策定経過

平成３０年	６月２９日	第１回　策定委員会
	１１月２日	第２回　策定委員会
	１２月１４日	第３回　策定委員会
平成３１年	２月２０日～３月１２日	パブリックコメントの募集

（２）策定委員名簿

No.	選　出	所　　属	氏　名	備考
1	小学校の代表	三郷小学校	本藤　和孝	
2	中学校の代表	恵那北中学校	樋田　東洋	
3	高等学校の代表	恵那高等学校	纐纈　康雄	
4	こども園の代表	明智こども園	阿知波多美子	
5	市図書館協議会の代表	図書館協議会	三宅　勝義	委員長
6	読書関係団体の代表	図書館サポーターえな	高草　　環	
7	子育て支援団体の代表	NPO 法人みんなで子育てドロップス代表	田口　容子	
8	子育て支援団体の代表	NPO 法人こぎつねくんわーるど	長谷川　文子	
9	保護者の代表	恵那市 PTA 連合会代表	坂倉　和恵	
10	識見のある者	恵那市社会教育委員	磯部　　彰	副委員長
11	教育委員会学校教育課教育研究所	教育研究所長	後藤　佐恵子	
12	図書館事務局	教育委員会事務局長	加藤　真治	
13	〃	生涯学習課長	伊藤　英晃	
14	〃	図書館長	可知　昌洋	
15	〃	市中央図書館副館長	纐纈　信吾	
16	〃	市中央図書館主任主査	保母　貴子	

（３）策定委員会　部会員名簿

No.	選　出	所　　属	氏　名	備考
1	教育研究所	市教育研究所指導主事	各務　恵美	
2	教育研究所	市教育研究所指導主事	小島　浩輝	
3	学校図書館	長島小学校図書主任	加藤　理恵	
4	学校図書館	恵那西中学校図書主任	松村　香里	
5	学校図書館	恵那高等学校図書主任	伊藤　綾美	
6	コミュニティセンター	コミュニティセンター主事	阿知波志保子	
7	図書館司書	市中央図書館司書	澤田　さやか	
8	子育て支援課	子育て支援課課長補佐	加藤　友美	
9	健幸推進課	母子保健係主事	井戸　美幸	
10	生涯学習課	生涯学習課課長補佐	安田　英明	
11	社会教育課	障がい福祉係長	安部　尚紀	
12	幼児教育課	幼児教育係長	丸山　福美	

第三次恵那市子ども読書活動推進計画

平成３１年４月発行
恵那市
恵那市子どもの読書活動推進計画策定委員会
事務局　恵那市中央図書館
〒509-7205　岐阜県恵那市長島町中野二丁目２番地５
電話　0573-25-5120